

(令和 6 年度事務事業分)

令和 7 年度 稲美町教育委員会点検評価報告書

稲美町教育委員会

目 次

I はじめに.....	1
-------------	---

II 教育委員会の活動状況.....	1
--------------------	---

- 1 教育委員
- 2 稲美町総合教育会議
- 3 教育委員会会議の開催状況
- 4 教育委員会会議以外の活動状況

III 評価等にあたって.....	5
-------------------	---

- 1 評価等の対象
- 2 評価の方法
- 3 評価委員
- 4 公表

IV 教育委員会における実施事業の点検評価.....	6
----------------------------	---

- 1 総括
- 2 稲美町教育振興基本計画点検評価調書
(令和6年度事務事業分)
- 3 令和6年度 教育振興基本計画事務事業評価一覧表

I はじめに

教育基本法第17条第2項「（前略）地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるように努めなければならない。」に基づき、稲美町教育委員会では、平成21年3月に第1次稲美町教育振興基本計画を策定した。以降、国や兵庫県の計画を踏まえ、平成26年3月に第2次稲美町教育振興基本計画、令和元年度には第3次稲美町教育振興基本計画を策定した。令和6年度には第4次稲美町教育振興基本計画策定委員会を設置し、令和7年度から実施する第4次稲美町教育振興基本計画を策定した。

教育委員会の権限に属する事務の管理執行状況の点検評価を目的として、稲美町教育委員会では、稲美町教育振興基本計画点検評価委員会を組織し、自己評価及び外部評価を毎年実施することで、同計画の見直しを行っている。

II 教育委員会の活動状況

1 教育委員

（令和7年3月31日現在）

職 名	氏 名	就 任 年 月 日
教育長	北谷 錦也	令和 3 年 4 月 1 日
委 員（職務代理者）	後藤 哲夫	平成26年 6 月 9 日
委 員	本多 澄子	平成28年10月 1 日
委 員	高田 道夫	令和 2 年10月 1 日
委 員	松田 緑	令和 4 年10月 1 日

2 稲美町総合教育会議

第1回 令和6年10月24日実施

（協議内容）

- (1) 稲美町史編さん事業について
- (2) 不登校児童生徒への支援について
- (3) 子どもの読書活動推進計画策定について
- (4) 中学校部活動の地域展開（連携、移行）について
- (5) 第4次稲美町教育振興基本計画策定について
- (6) 自由討議

第2回 令和7年2月21日実施

(協議内容)

- (1) 第4次稲美町教育振興基本計画策定について
- (2) 学校給食公会計化事業について
- (3) いなみ野体育センター空調設備設置事業及びスケートボードパークの設置について
- (4) 令和7年度教育委員会の事業について
- (5) 自由討議

3 教育委員会会議の開催状況

開催回数 定例会：12回 臨時回：1回

期日	区分	付議案件等
4月25日 15時～	定例	報告第1号 稲美町教育支援委員会委員の委嘱について 報告第2号 稲美町生きる力を育むための小・中連携推進委員会委員の委嘱について 報告第3号 稲美町学校給食協議会委員の委嘱について 報告第4号 稲美町教育振興基本計画策定委員会委員の委嘱について 報告第5号 稲美町教育振興基本計画点検評価委員の委嘱について 報告第6号 稲美町心の健康サポート委員会委員の委嘱について 報告第7号 稲美町社会教育委員会委員の委嘱について 報告第8号 稲美町地域学校協働活動推進員の委嘱について 報告第9号 稲美町学校開放管理指導員の委嘱について 報告第10号 稲美町スポーツ推進委員の委嘱について 議案第4号 稲美町教育委員会事務分掌規則の一部を改正する規則の制定について
5月23日 15時～	定例	報告第11号 稲美町幼稚園評議員及び学校運営協議会委員の委嘱について 議案第5号 令和7年度使用教科用図書に係る稲美町教科用図書選定委員会委員の委嘱について 協議 (1) 令和7年度稲美町立学校長及び教頭採用候補者予備選考試験の実施について (2) 令和6年度稲美町教職員初任者研修計画について (3) 稲美町民間不登校児童生徒支援施設利用補助金交付要綱について
6月27日 15時～	定例	報告第12号 令和6年度6月補正予算に係る意見について 報告第13号 稲美町学校統括安全衛生委員会委員の委嘱について 報告第14号 稲美町通学路交通安全対策協議会委員の委嘱について 報告第15号 稲美町青少年問題協議会委員の委嘱について 報告第16号 稲美町学校・家庭・地域の連携協力推進委員会委員の委嘱について 報告第17号 稲美町文化会館運営審議会委員の委嘱について 報告第18号 稲美町図書館協議会委員の委嘱について 議案第6号 稲美町教育委員会会議規則の一部を改正する規則の制定について 議案第7号 稲美町教育振興基本計画点検評価委員会設置要綱の一部を改正する要綱の制定について 議案第8号 稲美町教育委員会後援等名義の使用承認に関する事務

		協議 (1)	取扱要綱の一部を改正する要綱の制定について 令和5年度各幼稚園・小学校・中学校の学校評価等(学校自己評価の結果及び学校関係者評価について)
7月25日 15時～	定例	協議 (1) (2) (3)	令和6年度第1回「困りごとについてのアンケート」 集計結果について 令和6年度稲美町学校園訪問について 令和5年度指定管理者施設の事業実績及び収支決算状況について
8月8日 15時～	定例	報告第19号 議案第9号	稲美町男女共同参画プラン推進懇話会委員の委嘱について 令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書の採択について
9月30日 15時～	定例	報告第20号 報告第21号 報告第22号 議案第10号 協議 (1)	令和6年度稲美町準要保護児童及び生徒の認定について 令和7年度稲美町幼稚園教諭の採用について 令和7年度稲美町給食調理員の採用について 稲美町教育振興基本計画策定委員会委員の委嘱について 令和6年度初任者研修について
10月24日 15時～	定例	議案第11号 協議 (1)	令和7年度稲美町立幼稚園の入園許可について 令和6年度全国学力・学習状況調査について
11月27日 15時～	定例	議案第12号 議案第13号 議案第14号 議案第15号 協議 (1)	稲美町立文化会館の設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則の制定について 稲美町立公民館の設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則の制定について 稲美町立図書館の設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則の制定について 令和6年度12月補正予算に係る意見について 令和7年度稲美町立学校教職員異動方針について
12月26日 15時～	定例	議案第16号 協議 (1)	稲美町の教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価(令和5年度分)について 令和6年度稲美町教育支援委員会の答申について
1月23日 15時～	定例	報告第23号 報告第24号 議案第17号 協議 (1) (2) (3) (4)	稲美町学校給食用物資納入業者登録要綱の制定について 稲美町学校給食用物資調達要綱の制定について 稲美町学校給食費に関する条例の制定に係る意見について 令和7年度稲美町教育予算に係る意見について 令和7年度稲美町立小学校・中学校の就学通知者について 令和6年度稲美町立幼稚園・小学校・中学校の卒業(修了)者について 令和6年度第2回「困りごとについてのアンケート」集計結果について
2月21日 15時～	定例	議案第18号 議案第19号 (令和7年) 議案第1号 協議 (1)	学校教育又は社会教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針を定めることについて 令和6年度3月補正予算に係る意見について 令和7年度教育予算に係る意見について 稲美町立学校の教職員の業務量の適切な管理その他教育職員の健康及び福祉の確保を図るために実施すべき措置に関する方針(働きがいのある学校づくりに関する方針)の一部改正について

3月17日 14時30分～	臨時 定例	報告第25号 稲美町立学校県費負担教職員の人事の件について（非公開） 議案第2号 稲美町立学校県費負担教職員の人事異動について（非公開） 報告第26号 稲美町青少年問題協議会委員の委嘱について 議案第3号 稲美町教育委員会が所管する補助金等の交付に関する規程の一部を改訂する規程の制定について
------------------	----------	---

4 教育委員会会議以外の活動状況

(1) 研修等

名 称	実施日（予定日）	開催場所等
兵庫県市町村教育委員会連合会 定時総会及び研修会	令和6年5月16日	イーグレひめじ
播磨東地区教育委員会連合会 総会及び研修会	令和6年7月24日	明石市立勤労福祉会館
兵庫県市町村教育委員会連合会	令和6年 8月22～23日	ホテル北野プラザ六甲荘
播磨東地区教育委員会連合会 合同研修会	令和6年11月21日	明石市役所北庁舎ゆほびかホール

(2) 教育委員会関連事業

ア 入学（園）式・卒業（園）式（修了式）

	幼稚園	小学校	中学校
入学（園）式	4月11日	4月10日	4月9日
卒業（園）式	3月19日	3月21日	3月14日

イ 運動会・体育祭

	幼稚園	小学校	中学校
運動会 (体育祭)	9月28日 10月5日 10月9日 10月12日	10月19日	9月21日

ウ 学校訪問等

- ・幼稚園2園 小学校2校 中学校1校への学校訪問：計3回
(令和6年度は稲美北中学校区：学校訪問は中学校区ごとに隔年実施)
- ・各学校で実施している上記以外の行事等に参加
(オープンスクール、学習発表会、各種研究会発表会等)

Ⅲ 評価等にあたって

1 評価等の対象

今回実施した評価の対象は、稲美町教育振興基本計画に基づき実施された事業のうち、主なもの 25 事業（教育課 14 事業、人権教育課 2 事業、生涯学習課 6 事業、文化の森課 3 事業）とした。

2 評価の方法

各課の事務事業を「評価調書」により 4 段階評価で自己点検を行った。また、管理及び執行の状況について客観性をもたせるため、教育に関して学識経験を有する外部評価委員から評価と講評を受けたうえで、「令和 7 年度稲美町教育委員会点検評価報告書」を作成した。

- ① A～D の 4 段階評価で判定し、A は「十分できている」、B は「できている」、C は「あまりできていない」、D は「できていない」とした。
- ② 今後の方向性については、「拡大」「継続」「縮小」「休止」「廃止・終了・管理移管」の 5 つで表した。

3 評価委員

當 山 清 実 兵庫教育大学大学院学校教育研究科 教授
立 本 千寿子 兵庫大学教育学部教育学科 教授

4 公表

稲美町ホームページに公開する。

IV 教育委員会における実施事業の点検評価

1 総括

令和 6 年度に実施した新規・重点事業は原則として評価の対象とすることとし、各課で選んだ 25 事業についての点検評価を行った。

総合評価では A 評価（十分できている）80%、B 評価（できている）16%、評価対象外 4%となっており、前年度実績を上回る成果が認められた。

今後の方向性は、ほぼ「継続」となっており、「拡大」は ICT 利活用推進事業と生きる力を育むための小・中連携推進事業（含 心の教育充実事業）における校内ふれあいルーム支援員の増員、部活動地域移行推進事業の 3 事業である。今後は、「不易」と社会の要請に応じた「流行」を適切に取り入れ、教育の本質的価値を実現するため、必要な事業を着実に推進していく必要がある。

点検評価委員による総合評価の判定別事務事業数

評価	A (十分できている)	B (できている)	C (あまりできていない)	D (できていない)	評価せず
事業数	20	4	0	0	1
割合	80.0%	16.0%	0%	0%	4.0%
前年度	68.0%	32.0%	0%	0%	-

合計 25 事業
(前年度 25 事業)

2 稲美町教育振興基本計画点検評価調書 (令和6年度事務事業分)

調 書 目 次

令和6年度分 稲美町教育振興基本計画点検評価事業名一覧

<教育課>・・・14 事業

1 研修・評価事業	9
2 特別支援教育事業	10
3 ICT利活用学校支援事業	11
4 魅力あるいなみの教育事業	12
5 生きる力を育むための小・中連携推進事業（含 心の教育充実事業）	13
6 コミュニティ・スクール推進事業	14
7 学校園運営事業、学校教育振興事業(1)	15
8 学校園運営事業、学校教育振興事業(2)	16
9 学校体験活動事業	17
10 学校園施設維持管理事業	18
11 交通安全指導事業	19
12 幼稚園預かり保育事業	20
13 放課後児童クラブ管理運営事業	21
14 学校給食運営事業	22

<人権教育課>・・・2 事業

15 人権教育啓発事業	23
16 男女共同参画事業	24

<生涯学習課>・・・6 事業（含む指定管理）

17 生涯学習校区まちづくり事業	25
18 学校・家庭・地域の連携協力推進事業	26
19 町史編さん事業	27
20 水辺の里公園管理運営事業	28
21 生涯スポーツ推進事業	29
22 スポーツ施設管理運営事業	30

<文化の森課>・・・3 事業

23 図書館管理運営事業	31
24 公民館管理運営事業	32
25 文化会館管理運営事業	33

令和6年度 稲美町教育委員会評価調書

事業名		1 研修・評価事業		事業費 (千円)		5年度 [決算]		6年度 [決算]		7年度 [予算]	
						961		960		1,080	
目的		・子どもたちに質の高い教育を提供するとともに、さまざまな教育課題に適切に対応するため、教職員の資質と実践的な指導力の向上を図る。 ・学習指導要領において、全ての学習の基盤となる言語能力の育成が重視されており、子どもたちがことばの魅力を感じ、ことばの力を獲得することをめざして、教員研修を推進する。									
根拠法令等		教育公務員特例法、地方公務員法 学習指導要領、幼稚園教育要領					担当課		教育課		
第3次 教育振興基本計画 による位置づけ		重点目標	I-1	確かな学力の定着							
		重点事項	(1) (2)	学習指導要領に対応した学力の向上 新しい時代に求められる資質・能力の育成							
		重点目標	II-1	持続可能な学校指導体制の充実							
		重点事項	(2) (3)	教職員の資質向上 個に応じたきめ細やかな指導の充実							
事業を 構成する業務		具体的取組	評価のめやす (単位)	3年度 実績値	4年度 実績値	5年度 実績値	6年度		自己 評価 ※1	今後の 方向性 ※2	7年度 目標・ 予定値
1	教職員研修	稲美町教職員 スキルアップ 研修の実施	研修会(回)	7	7	7	8	10	A	2	7
			参加数(人)	198	151	142	160	157			160
2	ことばの学 習活性化推 進事業	講演会の開催や 研究推進委員会 を中心とした授 業研究の実施	校内研修 (回) ※幼小中の合計	178	191	190	180	200	A	2	190
取組の成果		・町主催のスキルアップ研修において、県から指導主事を招聘し、現場で働く教員が国や県の動向を知る機会を提供した。指導主事から助言を受けることで教員の指導の幅が広がり、実践力の向上につながった。 ・当初8回を予定していたスキルアップ研修を、一人一台端末の効果的な活用を考慮し、実情に応じた研修を実施した。 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業実践や安心安全な環境づくりに関する研究会等を多数実施することで、児童生徒のことばの力の育成学習指導や授業力の向上を図ることができた。									
課題と改善策		・稲美町教職員スキルアップ研修の参加人数は、令和5年度より増加しているものの最多であった令和3年度と比較すると減少している。実施後アンケートの結果をもとに、教職員のニーズに応じた多様なテーマの研修を企画・実施していく。									

※1 A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない

※2 1 拡大 2 継続 3 縮小 4 休止 5 廃止・終了・管理移管

◎点検評価委員評価

総合評価	A	A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない
点検評価委員 コメント	- 研修効果については、量的な側面(実施回数、参加人数など)だけでなく、質的な側面(満足度、理解度、効果など)に重点を置いた把握に努めていただきたい。 1人1台端末を活用したICT教育やユニバーサルデザインといった幅広い観点から、ことばの魅力を感じ、ことばの力を育成していけるよう努めていただきたい。	

令和6年度 稲美町教育委員会評価調書

事業名		2 特別支援教育事業	事業費 (千円)	5年度	6年度	7年度					
				[決算]	[決算]	[予算]					
				67,308	109,957	147,484					
目的		特別な支援を必要とする幼児児童生徒に対して、支援の充実を図る。									
根拠法令等		稲美町特別支援教育指導補助員配置要綱 稲美町立学校園医療的ケア実施要綱			担当課	教育課					
第3次 教育振興基本計画 による位置づけ	重点目標	Ⅱ-4	多様なニーズに対応した教育の充実								
	重点事項	(1)	特別支援教育の充実								
	重点事項	(3)	多様なニーズのある児童生徒への支援								
事業を 構成する業務		具体的取組	評価のめやす (単位)	3年度 実績値	4年度 実績値	5年度 実績値	6年度		自己 評価 ※1	今後の 方向性 ※2	7年度 目標・ 予定値
1	個々の教育的ニ ーズに応じた多 様で柔軟な仕組 みの充実	特別支援教育指導 補助員を、各学校 園へ配置	配置人数(人)	31	36	33	39	39	A	2	42
2	多様な支援を行 うための校園内 支援体制の構築	幼稚園でのコンサル テーション、小 中学校での特別支 援学級担任者研修 会等、教職員の専 門性の向上	コンサルテー ション(回)	5	10	20	20	20	A	2	20
		特別支援教育 コーディネー ターネットワ ーク会議(回)	2	2	2	2	2	2			2
3	相談体制の充実	発達支援連絡会等 を通して健康福祉 部局等と連携した り、保護者等にサ ポートファイルの 作成と活用を勧め たりして、切れ目 ない支援を構築	発達支援連絡 会(回)	2	2	2	2	2	A	2	2
		発達相談会 (回)	10	10	10	10	10	10			10
取組の成果		・特別な支援を必要とする幼児児童生徒の増加傾向を踏まえ、特別支援教育指導補助員を増員し、きめ細やかな指導・支援の充実を図った。 ・一人一人の教育的ニーズに応じた学びの場において、適切な指導や必要な支援を行うため、特別支援学校などの外部機関から講師を招き、特別支援学級担任や通級指導教員の専門性向上を目的とした研修を充実させた。その結果、教職員の専門的知識と実践力が向上し、幼児児童生徒の実態に即した支援がよりの確に実施できるようになった。 ・医療的ケア児が幼稚園から小学校へ進学したことや、令和7年度に入学予定者がいることを踏まえ、関係小学校において支援体制の整備を進めた。その結果、教職員の医療的ケア児への理解が深まり、連携体制の強化につながった。									
課題と改善策		・学校と福祉関係事業所との連携が十分とは言えない現状を踏まえ、今後は連携の強化に努めながら、教育・福祉の両面から一貫した指導・支援の充実につなげていく。 ・障がいのある幼児児童生徒が就学前から卒業まで切れ目なく支援を受けられるよう、教職員の専門性向上に向けた研修（合理的配慮の提供や「トライアングル・プロジェクト」など）をより一層充実させ、継続的な支援体制の構築に取り組む。									

※1 A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない

※2 1 拡大 2 継続 3 縮小 4 休止 5 廃止・終了・管理移管

◎点検評価委員評価

総合評価	A	A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない
点検評価委員 コメント	・特別支援教育のニーズの高まりに応じ、個に応じた指導の充実と教職員研修の継続的な推進に努めていただきたい。 ・公教育だからこそ可能な福祉・医療との連携を強化し、支援体制の充実を図っていただきたい。	

令和6年度 稲美町教育委員会評価調書

事業名		3 ICT 利活用推進事業	事業費 (千円)	5年度 [決算]	6年度 [決算]	7年度 [予算]					
				104,763	82,444	295,903					
目的		・ ICT 機器を活用した教科指導により、学習活動の充実を図る。 ・ 学校における校務の ICT 化を進め、業務の効率化により教職員の勤務時間の適正化を図る。									
根拠法令等		学校教育の情報化の推進に関する法律			担当課	教育課					
第3次 教育振興基本計画 による位置づけ	重点目標	I－4	生き方の探求、社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成								
	重点事項	(3)	情報教育の推進								
	重点目標	II－3	安全・安心な教育環境の整備と安全教育の充実								
	重点事項	(1)	学校施設の改善と充実								
事業を 構成する業務		具体的取組	評価のめやす (単位)	3年度 実績値	4年度 実績値	5年度 実績値	6年度		自己 評価 ※1	今後の 方向性 ※2	7年度 目標・ 予定値
1	ICT 環境の充実、 情報セキュリティの徹底と安全 安心な情報管理 の推進	ICT 環境の充実／ 校務支援システム を活用した事務処 理を行い、業務の 効率化	校務用端末、 学習用端末 数(台)	3,164	3,165	3,175	3,182	3,184	A	1	3,160
2	情報活用能力の 育成	GIGA スクール構 想等により整備さ れた ICT 環境を通 じて活用した学習 活動の充実と、ICT の特性を生かした 学びの推進	授業・校務で ICT の基本的 な操作がで きる教員の 割合(%)	72.0	69.1	72.39	80.0	88.6	A	2	85.0
		ICT を活用した教 科指導力の向上に 向けた教員研修の 実施	教員の研修 受講率(%)	100	92.4	96.5	100	98.6			100
取組の成果		・GIGAスクール構想の下で整備された1人1台端末に導入されている協働学習支援ツールやデジタル教科書等を、各教科の特性や場面に応じて積極的に活用した。その結果、児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力の育成を着実に進めることができた。 ・多様なテーマによる教職員研修を複数回実施し、ICT 活用の実践事例を教職員間で共有したことで、授業や校務における ICT の効果的な活用が進み、教職員の指導力が向上した。									
課題と改善策		・全ての教科等で ICT を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るため、教職員スキルアップ研修や各校でのミニ研修等の充実、好事例の共有などに継続的に取り組む。 ・令和7年度に校務用端末及び1人1台端末が更新時期を迎えることから、端末更新等を着実に推進し、安定的な ICT 環境の維持に努める。									

※1 A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない

※2 1 拡大 2 継続 3 縮小 4 休止 5 廃止・終了・管理移管

◎点検評価委員評価

総合評価	A	A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない
点検評価委員 コメント	- 端末の整備・更新をはじめ、教育実践において更なる ICT の利活用を図る取り組みの推進を期待する。 - ICT 機器の利活用を進めるとともに、ICT では成しえない教育の大切さにも留意し、バランスの取れた教育実践を展開していただきたい。	

令和6年度 稲美町教育委員会評価調書

事業名		4 魅力あるいなみの教育事業		事業費 (千円)	5年度 [決算]	6年度 [決算]	7年度 [予算]				
					31,372	32,549	35,491				
目的		・国際理解教育を低年齢期より始めることにより、グローバル化する社会の一員として主体的に行動する素地を養う。 ・児童生徒に生きる力を育むことをめざし、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する。									
根拠法令等		・学習指導要領、幼稚園教育要領 ・理科観察実験支援事業実施要領(国庫補助事業)			担当課	教育課					
第3次 教育振興基本計画 による位置づけ		重点目標	I-4	生き方の探求、社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成							
		重点事項	(2)	幼小中一貫した国際理解教育の推進							
		重点目標	II-2	特色ある教育活動の展開							
		重点事項	(1) (3)	地域の教育資源の活用 ふるさと意識を醸成する教育の推進(I-4(1)キャリア教育の推進)							
事業を 構成する業務		具体的取組	評価のめやす (単位)	3年度 実績値	4年度 実績値	5年度 実績値	6年度		自己 評価 ※1	今後の 方向性 ※2	7年度 目標・ 予定値
1	英語教育指導業務	外国語指導講師による外国語活動の実施	外国語指導講師数(人) 週あたり配置時間(時間)	5 29	5 40	5 40	5 40	5 40	A	2	5 40
2	ふるさと先輩事業	地域のゲストティーチャーによる学習支援	ゲストティーチャー(人)	45	57	55	57	56	A	2	57
3	キャリア教育の推進	小中高を通じたキャリアノートやキャリアパスポートの活用	将来の夢や目標を持つ児童生徒の割合(%)	小6 80.5 中3 66.8	小6 80.9 中3 71.2	小6 82.7 中3 74.2	83 74	87.1 63.8	B	2	小6 83 中3 74
4	特色ある学校づくり研究事業	町内推進校による取組	研究指定校	天満小 稲美北中	天満小 稲美北中	天満東小 稲美中	—	天満東小 稲美北中	A	2	天満小 稲美中
取組の成果		・外国語指導講師の週あたりの配置時間を継続的に増やすことで、学校生活全般で学んだ知識を活用し、外国語指導講師とのコミュニケーションを図る時間を確保した。その結果、中学3年生を対象に実施したスコア型英語4技能テスト「GTEC」では、リスニング力が高水準であった。 ・「理科だいすき推進事業(国庫補助事業)」では、教員定数の制約により、負担の大きい小学校にアシスタントを配置した。アシスタントの支援により、きめ細かな指導が可能となり、論理的思考力の向上に重点を置いた授業展開が実施できた。 ・「ふるさと先輩事業」では、地域に根差した農家や音楽家などのゲストティーチャーによる授業を通じて、将来の展望を持つきっかけとなったほか、芸術や伝統文化に触れることで感受性が豊かになったとの感想も多く寄せられ、身近なキャリアモデルの提示につながった。									
課題と改善策		・「特色ある学校づくり研究事業」では、研究成果を町内外に広く周知し、特色ある活動の一層の推進を図る。 ・「ふるさと先輩事業」では、児童生徒が地域で活躍する大人の姿を見たり話を聞くことで、将来の夢や目標をより具体的にイメージできるよう支援し、特色ある教育活動と開かれた学校づくりの推進をさらに強化する。									

※1 A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない

※2 1 拡大 2 継続 3 縮小 4 休止 5 廃止・終了・管理移管

◎点検評価委員評価

総合評価	A	A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない
点検評価委員 コメント	- 事業の継続的な実施とともに、多岐にわたる取組に対応した評価・成果指標を検討していただきたい。 - 子どもたちの多様性が重視される時代だからこそ、特性に応じた事業の展開と客観的な評価指標の導入を進めていただきたい。	

令和6年度 稲美町教育委員会評価調書

事業名		5 生きる力を育むための小・中連携推進事業(含 心の教育充実事業)	事業費 (千円)	5年度 [決算]	6年度 [決算]	7年度 [予算]						
				3,305	6,591	7,271						
目的		・都市化や少子化、核家族化などにより、地域における連帯感が希薄化する中で、子どもたちの自尊感情を高め、人間関係を築く力や社会性を育成する。 ・児童生徒支援員の配置により、問題行動の未然防止、早期発見、早期対応を図る。										
根拠法令等		稲美町いじめ防止基本方針 生きる力を育むための小中連携推進委員会設置要綱 心の健康サポート委員会設置要綱 不登校支援プラン			担当課	教育課 人権教育課						
第3次 教育振興基本計画 による位置づけ		重点目標	Ⅰ－2		豊かな心の育み							
		重点事項	(3) (6)		心の教育の充実 青少年の健全育成							
		重点目標	Ⅱ－4		多様なニーズに対応した教育の充実							
		重点事項	(2)		不登校児童生徒への支援							
事業を 構成する業務		具体的取組	評価のめやす (単位)	3年度 実績値	4年度 実績値	5年度 実績値	6年度 目標・ 実績値		自己 評価 ※1	今後の 方向性 ※2	7年度 目標・ 予定値	
1	生きる力を育むための小中連携推進委員会	いじめの未然防止、早期発見、早期対応の取組	いじめ認知件数 (件)	小	10	19	14	－	21	B	2	－
				中	9	7	11	－	14			－
2	心の健康サポート委員会	不登校の未然防止、早期発見、早期対応の取組	不登校児童生徒の出現率(%)	小	0.66	0.79	2.22	－	2.54	B	2	－
				中	2.58	4.53	6.32	－	4.74			－
3	校内ふれあいルームにおける支援	校内ふれあいルームの活用	不登校支援員(人)		2	3	3	3	4	B	1	5
取組の成果		・いじめ認知件数の増加は、見逃すことなく早期に把握・対応する体制が整ってきた結果である。実態を正しく捉えて対応する姿勢が浸透し、児童生徒にとって安心できる学校環境づくりが進んでいる。また、小中連携の強化により、情報共有や支援の継続性が高まり、学校を越えた包括的な支援が可能となってきた。 ・人間関係や学習に対する不安など心のケアのために設置した校内ふれあいルームでは、不登校支援員や担当教員が常駐することで、安心して学校生活を送る児童生徒が増加した。中学校においては2年連続して不登校生徒数が減少した。										
課題と改善策		・児童生徒の内面の状態や困難を可視化するため、「心理テスト(Q-U)」や「困りごとアンケート」を継続的に実施し、児童生徒の抱える課題への理解を深め、個別支援につなげていく必要がある。 ・小学校では不登校児童が増加傾向にあり、不登校支援員を1名増員し、配置校を1校追加した。学校内の多様な居場所を確保することで、必要としている児童が安心して登校できるようになっている。今後も未然防止、早期発見、早期対応が可能な体制を整えていくためには、不登校支援員のさらなる増員を図り、町内全小中学校に配置する必要がある。										

※1 A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない

※2 1 拡大 2 継続 3 縮小 4 休止 5 廃止・終了・管理移管

◎点検評価委員評価

総合評価	B	A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない
点検評価委員 コメント	・いじめや不登校の事案に対して、早期発見・早期対応を可能とする組織的な体制づくりに努めていただきたい。 ・登校に課題のある児童生徒に寄り添い、一人ひとりの小さな成長を的確に捉えた丁寧な支援を継続していただきたい。	

令和6年度 稲美町教育委員会評価調書

事業名		6 コミュニティ・スクール推進事業		事業費 (千円)	5年度 [決算]	6年度 [決算]	7年度 [予算]				
					2,729	3,313	3,401				
目的		・地域住民や保護者等が学校運営に参画する仕組みである学校運営協議会制度を導入し、コミュニティ・スクールとしての活動を充実させる。 ・学校運営協議会による意見や評価をもとに、地域と学校が連携して学校運営の改善を図る。									
根拠法令等		地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5			担当課	教育課					
第3次 教育振興基本計画 による位置づけ		重点目標	Ⅱ—2	特色ある教育活動の展開							
		重点事項	(2)	特色ある学校運営協議会の運営							
		重点目標	Ⅲ—2	開かれた学校園づくりの推進							
		重点事項	(1)	コミュニティ・スクールの推進							
事業を 構成する業務		具体的取組	評価のめやす (単位)	3年度 実績値	4年度 実績値	5年度 実績値	6年度		自己 評価 ※1	今後の 方向性 ※2	7年度 目標・ 予定値
1	学校運営の 改善	学校運営協議 会制度を広く 導入	学校運営協 議会導入率 (%)	57	100	100	100	100	A	2	—
2	児童生徒の 地域貢献活 動の推進	児童生徒が主 体的に地域に 関わる活動の 充実	児童生徒主 体の地域貢 献活動実施 回数(回)	—	—	—	7	15	A	2	20
			地域や社会 をよくなる ために何か してみたい と思う児童 生徒(%)	小 66.5	小 55.4	小 78.7	小 80.0	小 91.0	A	2	小 92.0
		全国学力学習状況調査	中 55.6	中 40.9	中 73.1	中 75.0	中 83.3				
3	学校関係者 評価委員会 の活用	学校と地域が 連携・協働した 取組の実施	学校評価へ の保護者・ 住民の参加 率(%)	100	100	100	100	100	A	2	100
取組の成果		・「児童生徒が主体的に地域行事に関わる活動の推進」については、児童生徒が活躍できる場の検討が進み、実績として着実に積み重ねられた。 ・中学校区単位での小中連携の取組が進展し、地域行事や活動への参加を通じ、学校と地域の連携がより深まった。 ・地域との連携体制は着実に構築され、児童生徒が地域社会の一員としての意識を持ち、自ら積極的に関わる姿が定着しつつある。									
課題と改善策		・小中学校の連携を深め、学校運営を地域の取組として広げていくためには、児童生徒が地域行事に関わる活動において、学校運営の具体的なモデルを提示するなど、活動の質を高めていく必要がある。 ・児童生徒が「任される」「工夫する」「ふり返る」プロセスを大切にし、地域活動を通じたキャリア教育や社会性の育成と結びつけ、地域ぐるみで児童生徒の成長を支える意識を醸成を図る。									

※1 A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない

※2 1 拡大 2 継続 3 縮小 4 休止 5 廃止・終了・管理移管

◎点検評価委員評価

総合評価	A	A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない
点検評価委員 コメント	・児童生徒が主体的に地域に関わる活動の充実が図られ、目標値を大きく上回る成果を上げている点を高く評価する。 ・児童生徒と地域住民が相互に稲美町の魅力を高め合う交流活動となるよう、今後の更なる推進に期待したい。	

令和6年度 稲美町教育委員会評価調書

事業名		7 学校園運営事業、教育振興事業（1）	事業費（千円） うち関係分	5 年度	6 年度	7 年度					
				[決算]	[決算]	[予算]					
				67,270 3,749	84,569 3,900	92,727 3,900					
目的		・児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育指導の充実と改善に役立てる。 ・人間が本来持つ「よりよく生きたい」という願いや、よりよい生き方を求め実践する力の育成をめざし、その基盤となる道徳性を養う。 ・子どもたちが読書活動を通して感性を磨き、読解力や表現力を高めることができるよう、学校図書館環境の整備・充実に努めるとともに、多様な本にふれる機会の提供等、読書習慣の定着と読書意欲の向上を図る。									
根拠法令等		学校教育法施行規則、学習指導要領、幼稚園教育要領、新学習システムの推進に係る実施要項			担当課	教育課					
第3次教育振興基本計画による位置づけ		重点目標	I－1	確かな学力の定着							
		重点事項	(1)	学習指導要領に対応した学力の向上							
			(2)	新しい時代に求められる資質・能力の育成							
		(3)	さまざまな形態による学習の推進								
		重点目標	I－2	豊かな心の育み							
		重点事項	(1)	道徳教育の推進							
			(5)	読書活動の推進							
事業を構成する業務		具体的取組	評価のめやす（単位）	3 年度実績値	4 年度実績値	5 年度実績値	6 年度		自己評価※1	今後の方向性※2	7 年度目標・予定値
							目標・予定値	実績値			
1	全国学力・学習状況調査（小学校6年生、中学校3年生）※国費で実施	小学校国語問題	授業内容がよくわかる児童の割合（％）	85.0	82.4	86.6	85.0	85.6	A	2	85.0
		小学校算数問題		90.0	82.5	78.3	85.0	78.6	B	2	85.0
2	中学校国語問題	中学校国語問題	授業内容がよくわかる生徒の割合（％）	84.7	76.1	75.3	80.0	82.1	B	2	80.0
		中学校数学問題		75.8	76.5	74.6	80.0	66.6	C	2	80.0
3	「考え議論する道徳」の推進	「特別の教科道徳」を基盤とした、心の教育の取組	自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる児童生徒の割合（％）	81.4	70.9	79.9	80.0	90.2	A	2	80.0
4	読書活動の推進（学校図書館の充実）	読書の時間の活用、委員会活動による読書活動の推進、学校図書館の環境整備	児童生徒一人あたりの貸し出し冊数（冊）	40.6	37.4	39.0	40.0	38.7	B	2	40.0
取組の成果		・小中学校とともに、全国及び兵庫県の結果と比較して同程度の水準であり、調査結果を基に現状把握し、特に算数・数学科の授業改善と効果的な学習指導の推進に取り組んだ。 ・道徳教育では、授業づくりや評価等に関する校内研修の充実により、「対話的な学び」を重視した授業への転換が進み、児童生徒の成長を促す取組がみられた。 ・国語の授業に「ビブリオバトル（本を紹介し合うゲーム形式の書評合戦）」等を取り入れ、自発的な読書活動を推進したことにより、読書習慣の定着と読書意欲の向上につながった。									
課題と改善策		・中学校数学では「確認問題」や「振り返り活動」を丁寧に取り入れ、つまずきの早期発見を図るとともに、ICTの利用により、視覚的・体験的に理解を深める「わかる授業」づくりを推進する。 ・道徳教育では、道徳性を養うために、研修を通じた教員の授業力の向上を図るとともに、学校の教育活動全体を通じた道徳教育の推進に取り組む。 ・読書活動では、新たな教育課題や各教科における調べ学習、児童生徒の興味・関心やニーズに対応するため、蔵書のさらなる充実と学校図書館の活用方法の工夫を図るとともに、1人1台タブレット端末を活用した電子図書の利用も進めていく。									

※1 A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない

※2 1 拡大 2 継続 3 縮小 4 休止 5 廃止・終了・管理移管

◎点検評価委員評価

総合評価	B	A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない
点検評価委員 コメント	・小学校算数・中学校数学における「わかる授業」の実現に向け、課題を的確に共有し、着手可能な取組から着実に進められることを期待する。 ・デジタル媒体が家庭にも普及している現代において、学校教育でのICT活用を検討し、授業や読書活動への効果的な活用を進めていただきたい。	

令和6年度 稲美町教育委員会評価調査

事業名		8 学校園運営事業、教育振興事業（２）	事業費 （千円） うち関係分	5年度 [決算]		6年度 [決算]		7年度 [予算]			
				67,270 1,500	84,569 6,373	92,727 8,094					
目的		運動の特性や魅力にふれ、体育・スポーツ活動の楽しさや喜びを体験することで、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する。									
根拠法令等		全国体力・運動能力調査実施要項 学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的ガイドライン				担当課		教育課			
第3次 教育振興基本計画 による位置づけ		重点目標	I－3		健やかな体の育成						
		重点事項	(1)		体力運動能力向上への取組						
		重点目標	IV－2		生涯にわたるスポーツの推進						
		重点事項	(1)		地域における身近なスポーツ環境の整備						
事業を 構成する業務		具体的取組	評価のめやす （単位）	3年度 実績値	4年度 実績値	5年度 実績値	6年度		自己 評価 ※1	今後の 方向性 ※2	7年度 目標・ 予定値
1	全国体力・運動能力調査 ※国費で実施	全国体力・運動能力調査の実施 （小学5年生、 中学2年生）	運動やスポーツは好きと答えた児童生徒（％）	小 87.5	小 88.3	小 87.5	小 91.0	小 91.8	A	2	小 91.0
				中 81.9	中 90.0	中 81.9	中 85.0	中 90.5	A		中 85.0
2	部活動地域移行推進事業	部活動の充実、地域におけるスポーツ・文化環境の整備	部活動（地域スポーツクラブや文化部に所属している児童生徒（％）	小 65.1	小 62.2	小 65.1	小 65.0	小 65.4	A	1	小 65.0
				中 96.4	中 93.3	中 96.4	中 94.5	中 94.4	A		中 94.0
取組の成果		・ 体力アップサポーター事業やアスリート派遣事業等を通じて、児童の運動に対する意識の向上や教師の指導法の改善につながった。 ・ 小学校では、体育の授業でのリズムジャンプ（音楽のリズムに合わせて様々なジャンプをすることで、リズム感を養い、運動能力を高めるトレーニング）の取組や、業間時間を活用した全校児童による活動を取り入れることで、運動習慣の定着につながった。									
課題と改善策		・ ICT の活用が依然として十分に浸透しておらず、児童生徒が自身の動きを画像や映像で確認しながら対話を促すなど、思考力、判断力、表現力等の資質・能力の育成に向けた取組を継続していく。 ・ 今後も全国体力・運動能力調査結果等を町スポーツ推進計画や児童生徒の持続可能なスポーツ環境の整備に活用し、今後の施策検討の参考としていく。 ・ 部活動地域移行推進事業を進めるために、学校や地域の課題を共有しながら、速やかに推進協議会で協議し、推進体制の構築に努める。									

※1 A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない

※2 1 拡大 2 継続 3 縮小 4 休止 5 廃止・終了・管理移管

◎点検評価委員評価

総合評価	A	A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない
点検評価委員 コメント	・令和10年度の部活動地域展開の完全実施に向けて、各種条件整備を計画的に進め、円滑に機能する体制の構築を期待する。 ・スポーツへの思いや能力の両方に焦点を当て、子どもたちが自らの興味関心に基づいた選択ができる事業になるよう、学校・地域での展開を期待したい。	

令和6年度 稲美町教育委員会評価調書

事業名		9 学校体験活動事業	事業費 (千円)	5年度 [決算]		6年度 [決算]		7年度 [予算]			
				7,691		8,100		8,076			
目的		自然や社会、芸術文化にふれる体験や学校家庭地域の連携を通じ、主体性を尊重した体験活動により、子ども一人一人が豊かな人間性と社会性を育む。									
根拠法令等		環境体験事業実施要項 自然学校推進事業実施要項 青少年芸術体験事業～わくわくオーケストラ教室～実施要項 地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実施要項 地域に活かす「トライやる」アクション実施要項					担当課		教育課		
第3次 教育振興基本計画 による位置づけ		重点目標	I－2		豊かな心の育み						
		重点事項	(2)		体験活動の推進（小中学校における体験活動の推進）						
事業を 構成する業務		具体的取組	評価のめやす (単位)	3年度 実績値	4年度 実績値	5年度 実績値	6年度		自己 評価 ※1	今後の 方向性 ※2	7年度 目標・ 予定値
1 小学校体験 活動事業		環境体験事業 (小学3年生)	5校年間の 実施回数 (回)	18 以上	21 以上	21 以上	15 以上	18 以上	A	2	15 以上
		自然学校推進 事業 (小学5年生)	児童の充 実度 ※学校評価による	A	A	A	A	A	A	2	A
2 中学校体験 活動事業		「トライやる・ ウィーク」 (中学2年生)	生徒の充 実度 (%)	91	86	82	90	90	A	2	90
		「トライやる」 アクション (中学生)	参加生徒 数 (人)	38	378	414	400	417	A	2	400
取組の成果		・小学校の体験活動事業（小学3・5年生対象）を通じて、自然を大切にする心や仲間と協力することの大切さ、家族の支えへの感謝の気持ちなど、豊かな人間性や社会性を育むことができた。 ・トライやる・ウィーク（中学2年生対象）では、事業所の理解を得ながら、不登校であった生徒9人中7人が参加し、個別のニーズに応じた活動を展開した。 ・わくわくオーケストラ教室事業（中学1年生対象）では、上質な音楽に触れることで、音楽を愛する心情を育むとともに、豊かな情操を養うことができた。									
課題と改善策		・トライやる・ウィークに関する教職員アンケートでは「学校と地域社会との関係にとって有益な活動であった」と「生徒の新たな側面などの発見があった」とする項目の評価が低下していることから、方法や内容の工夫、校内での情報共有、事前・事後指導の強化を図り、学校全体で取り組む体験活動として、より効果的で充実したものとなるよう改善を進めていく。									

※1 A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない

※2 1 拡大 2 継続 3 縮小 4 休止 5 廃止・終了・管理移管

◎点検評価委員評価

総合評価	A	A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない
点検評価委員 コメント	・体験格差が指摘される中で、児童生徒の豊かな人間性や社会性を育むため、より充実した体験活動の取組の展開を期待したい。 ・多様な児童生徒が心を開けるような取組の企画・展開を通じて、誰もが参加しやすい体験活動の推進を期待したい。	

令和6年度 稲美町教育委員会評価調書

事業名	10 学校園施設維持管理事業	事業費 (千円)	5年度 [決算]	6年度 [決算]	7年度 [予算]						
			繰越 127,820 現年 186,223	繰越 117,869 現年 129,639	繰越 139,975 現年 196,663						
目的	充実した教育活動を行うために、高機能かつ多機能な施設環境を備えるとともに、豊かな人間性を育むにふさわしい快適で安全性、防災性、防犯性に優れた衛生的な環境を整備する。										
根拠法令等	稲美町公共施設等総合管理計画 稲美町学校園施設長寿命化計画			担当課	教育課						
第3次 教育振興基本計画 による位置づけ	重点目標	Ⅱ-3	安全・安心な教育環境の整備と安全教育の充実								
	重点事項	(1)	学校施設の改善と充実（施設維持管理）								
事業を 構成する業務		具体的取組	評価の めやす (単位)	3年度 実績値	4年度 実績値	5年度 実績値	6年度		自己 評価 ※1	今後の 方向性 ※2	7年度 目標・ 予定値
							予定値	実績値			
1	大規模改造・長 寿命化改修	老朽化している 施設の全面的な 改修	事業費(千円) 上:繰越 下:現年	0 693	0 82,049	127,820 49,258	-	0 0	-	2	0 13,849
2	エレベーター設 置	要配慮児童等の 移動の円滑化の ためのエレベ ーターを設置	事業費(千円) 上:繰越 下:現年	0 6,171	87,384 0	0 3,184	-	51,584 1,829	-	2	91,585 0
3	照明設備等更新	教育環境改善の ための照明設備 の全面的な改修	事業費(千円) 上:繰越 下:現年	- -	- -	0 4,829	-	66,285 2,838	-	2	48,390 0
4	学校園施設維持 改修	教育環境を維持 するための日常 的な点検及び維 持改修	事業費(千円) 上:繰越 下:現年	559,128 23,709	31,340 46,736	0 27,921	-	0 13,383	-	2	0 17,266
			工事件数(件)	22	22	19	-	25	19		
取組の成果		・加古小学校のエレベーター設置工事を実施し、要配慮児童の校内移動の円滑化を図った。 ・令和7年度に予定している稲美中学校のエレベーター設置工事に向けて、実施設計を完了した。 ・母里・天満小学校、稲美中学校では屋内運動場の照明設備を更新し、教育環境を改善した。 ・令和7年度に予定している加古・天満南小学校の屋内運動場照明設備更新工事の実施設計を行った。									
課題と改善策		・老朽化が進んでいる学校園施設が多くあるが、同時期に複数の学校園で大規模改造等を実施することが困難である。そのため、施設の現状や改修方針等をまとめた学校園施設長寿命化計画に基づき、計画的に維持改修を進めていく。 ・安全安心な教育環境を維持するため、学校関係者と連携しながら、日常・定期的な点検を行い、確認された不具合等は速やかに改修等の対応を行っていく。									

※1 A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない

※2 1 拡大 2 継続 3 縮小 4 休止 5 廃止・終了・管理移管

◎点検評価委員評価

総合評価	—	A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない
点検評価委員 コメント	・事業の特性を考慮し、目標・実績・成果や指標設定のあり方について、今後さらに検討を深めていただきたい。 ・子どもたちの安心安全な教育環境を保持するため、必要性・切迫度の高い学校園からの適切な経費支出と運営を期待したい。	

令和6年度 稲美町教育委員会評価調書

tik

事業名		11 交通安全指導事業	事業費 (千円)	5年度 [決算]	6年度 [決算]	7年度 [予算]					
				19,218	19,221	20,557					
目的		通学路の安全点検を定期的に行い、危険箇所等に関する情報を学校間や家庭・地域と共有するとともに、稲美町通学路安全対策協議会を組織し、関係機関と協議し、順次危険箇所を整備する。									
根拠法令等		稲美町通学路交通安全基本方針 稲美町交通安全指導員設置及び運営要綱			担当課	教育課					
第3次 教育振興基本計画 による位置づけ		重点目標	Ⅱ－3	安全・安心な教育環境の整備と安全教育の充実							
		重点事項	(3)	児童生徒の安全対策の推進（登下校の安全）							
事業を 構成する業務		具体的取組	評価の めやす (単位)	3年度 実績値	4年度 実績値	5年度 実績値	6年度		自己 評価 ※1	今後の 方向性 ※2	7年度 目標・ 予定値
							目標・ 予定値	実績値			
1	稲美町通学 路安全対策 協議会	関係機関と 協議調整	実施回数 (現地調 査含む) (回)	3	3	3	3	3	A	2	3
2	交通安全指 導員配置	事故防止及 び事件抑止	配置員数 (人)	29	29	33	33	33	A	2	33
取組の成果		・ 稲美町通学路安全対策協議会において、学校から報告のあった危険箇所の安全対策について関係機関と協議し、意見を集約したうえで、効果的な安全対策を実施することができた。 ・ 交通安全指導員の配置により、児童生徒の登下校時の事故は発生せず、見守り体制が事件抑止につながり、安全確保に大きく寄与した。									
課題と改善策		・ 稲美町通学路安全対策協議会において、危険箇所等に関する情報を学校・家庭・地域と共有し、関係機関と連携しながら順次整備を進めていく。 ・ 交通安全指導員配置については、通学路の安全確保を図るため、通学する児童生徒数や交通量の確認を行い、適正な配置人数を決定していく。									

※1 A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない

※2 1 拡大 2 継続 3 縮小 4 休止 5 廃止・終了・管理移管

◎点検評価委員評価

総合評価	A	A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない
点検評価委員 コメント	・通学路の安全確保に向けて、地道な活動を支える組織運営と人員配置の継続的な取組に努めていただきたい。 ・稲美町の子どもたちを温かく見守り、安全を守る機能として多様な貢献を果たす本事業の継続を期待する。	

令和6年度 稲美町教育委員会評価調書

事業名	12 幼稚園預かり保育事業			事業費 (千円)	5年度 [決算] 9,811	6年度 [決算] 9,666	7年度 [予算] 12,780			
目的	町立幼稚園において、教育課程に係る時間外に預かり保育を実施することにより、園児の心身の健全な発達を図るとともに、保護者の子育て支援を行う。									
根拠法令等	稲美町立幼稚園における預かり保育の実施に関する条例・同施行規則・幼稚園教育要領				担当課	教育課				
第3次 教育振興基本計画 による位置づけ	重点目標	Ⅱ－5	幼児期の教育の充実							
	重点事項	(2)	子育ての支援							
事業を 構成する業務		具体的取組	評価のめやす (単位)	3年度 実績値	4年度 実績値	5年度 実績値	6年度 目標・ 実績値	自己 評価 ※1	今後の 方向性 ※2	7年度 目標・ 予定値
1	預かり保育	預かり保育 の利用	延べ人数 (人)	15,630	16,195	13,987	12,700 12,662	A	2	11,900
2	預かり保育 希望	預かり保育 の申請	希望人数 (人)	274	273	254	230 235	A	2	220
取組の成果		・令和3年度に長期休業期間中の預かり保育を開始し、令和5年度からは預かり保育時間を16時から16時30分まで延長した。専任の指導員10名を配置し、既存施設の有効利用により、効率的な運営を実現した。 ・在園児の約95%以上が預かり保育を希望しているが、希望者全員が利用できしており、待機児童は生じていない。								
課題と改善策		・預かり保育を継続的に実施し、保護者の子育て支援の一助になるよう取り組むとともに、子どもたちが多様な体験を通じて成長できるよう、活動のさらなる充実を図っていく。								

※1 A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない

※2 1 拡大 2 継続 3 縮小 4 休止 5 廃止・終了・管理移管

◎点検評価委員評価

総合評価	A	A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない
点検評価委員 コメント	- 預かり保育における多様な活動の実績や成果を積極的にPRし、より一層の利活用の促進につなげていただきたい。 - 女性の社会進出を踏まえ、安心して働き、育児ができる環境づくりと、家庭では得がたい多様な体験の提供を充実させ、子育て支援の内容を広く発信していただきたい。	

令和6年度 稲美町教育委員会評価調書

事業名		13 放課後児童クラブ管理運営事業			事業費 (千円)		5年度 [決算] 53,779	6年度 [決算] 52,640	7年度 [予算] 55,777		
目的		仕事を持つ保護者への子育て支援として、子どもたちに家庭に代わる生活の場を確保し、心身ともに健やかに育成するため、一定の質を備えた施設運営を行う。									
根拠法令等		児童福祉法 稲美町放課後児童クラブ設置及び管理に関する条例					担当課	教育課			
第3次 教育振興基本計画 による位置づけ		重点目標	Ⅲ－3	地域・家庭の教育力の向上と子育て支援							
		重点事項	(1)	放課後子どもプランの推進（放課後児童クラブ事業）							
事業を 構成する業務		具体的取組	評価のめやす (単位)	3年度 実績値	4年度 実績値	5年度 実績値	6年度 目標・ 予定値 実績値		自己 評価 ※1	今後の 方向性 ※2	7年度 目標・予 定値
1	児童クラブの 管理運営	指定管理者 制度を利用 した管理運 営	運営施設等の数 上：施設数 下：支援数	8 9	8 9	9 10	9 10	9 10	B	2	9 10
			登録人数（人） （月平均）	457	447	490	490	510	A	2	500
			利用者アンケート(%) (概ね満足以上)	90.3	90.5	96.6	90.0	96.4	A	2	90.0
取組の成果		・老朽化していた天満東第2児童クラブの空調設備を改修し、保育環境の改善を図った。 ・利用者のニーズやクラブの実態を把握し、家庭に代わり適切な遊びや生活の場を提供し、児童や保護者が安心して利用できる施設づくりに努めた。 ・指定管理者評価委員会による運営評価や、教育委員会で実施する定例会議等で状況を把握し、適切に指導することで安定した運営を維持することができた。									
課題と改善策		・登録人数が年々増加しており、令和5年度に母里地区で支援施設を2か所に増設したが、今後も増加が想定されるため、待機児童が発生しないよう施設や支援体制の見直しを行う。 ・施設の整備から年数を経過し老朽化が進んでいる施設もあり、児童が安心して過ごせる環境を維持するため、施設の状況を適宜確認し必要に応じて改修する。 ・適正な施設運営を継続するため、今後も町設置の指定管理者評価委員会や教育委員会による運営状況等の確認・評価を通じ、管理体制の維持向上に努める。									

※1 A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない

※2 1 拡大 2 継続 3 縮小 4 休止 5 廃止・終了・管理移管

◎点検評価委員評価

総合評価	A	A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない
点検評価委員 コメント	・利用者の高い満足度を維持できるよう、指定管理者の運営体制について、適時・適切な確認を継続していただきたい。 ・放課後児童クラブがあるからこそ働ける家庭があるという現状を踏まえ、継続的で満足度の高い事業の展開を期待したい。	

令和6年度 稲美町教育委員会評価調書

事業名		14 学校給食運営事業		事業費 (千円)	5年度 [決算]	6年度 [決算]	7年度 [予算]				
					194,234	244,006	389,592				
目的		・成長期にある児童生徒の心身の発達のため、地場産物の活用し、バランスのとれた栄養豊かな食事を提供することにより、健康の増進及び体位の向上を図る。 ・日常生活における正しい食習慣を身に付け、食事を共にすることで、好ましい人間関係を育成する。									
根拠法令等		学校給食法、食育基本法			担当課		教育課				
第3次 教育振興基本計画 による位置づけ		重点目標	I－3		健やかな体の育成						
		重点事項	(2)		食育の推進・充実（地産地消の推進）						
事業を 構成する業務		具体的取組	評価のめやす (単位)	3年度 実績値	4年度 実績値	5年度 実績値	6年度 目標・予定値 実績値	自己 評価 ※1	今後の 方向性 ※2	7年度 目標・予定値	
1	小中学校における安定した学校給食の提供	町立全小中学校で給食の提供	給食対象校(校)	小5 中2	小5 中2	小5 中2	小5 中2	小5 中2	A	2	小5 中2
			児童生徒数合計(人)	2,487	2,470	2,480	—	2,469	A	2	—
			アレルギー対応人数(人)	52	62	59	—	58	A	2	—
2	食育の推進	学校教育全体での食育活動の推進	毎日朝食を食べる児童生徒(%)	小98.5 中96.9	小96.4 中92.4	小97.8 中93.5	97.0 93.0	97.3 95.5	A	2	97 93
3	地産地消の大切さの周知	地産地消の推進	地産地消利用率(%)	県産48 うち町産29 60.4%	県産62 うち町産39 62.9%	県産60 うち町産42 70.0%	県産50 うち町産30 60.0%	県産60 うち町産42 70.0%	A	2	県産55 うち町産35 63.6%
取組の成果		・学校・家庭での食育の必要性を周知するために、献立表とともに給食だよりを児童生徒に配付し、啓発につなげることができた。 ・子どもが食に関して、自ら考え行動できる知識や能力を育むため、学校園が状況や年齢・発達段階に応じた食育指導を進めることにより、正しい食習慣の定着が進んでいる。 ・町内産を主とした地産地消に取り組み、安全安心な生産物を提供することで、子どもたちが生産者を身近に感じ、食に対する感謝の気持ちを育む機会となった。 ・令和7年度以降は公会計化の導入により、学校現場の事務負担が軽減される見込みである。									
課題と改善策		・子どもの食に関する知識や能力の育成には、学校教育に加え家庭での食育が不可欠であり、家庭や地域との連携を密にしながら、保護者への啓発を強化する。 ・公会計化が令和7年度から始まり、口座登録や転出入に伴う在籍管理、過誤納などの課題が想定されるため、チェック体制を整える必要がある。									

※1 A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない

※2 1 拡大 2 継続 3 縮小 4 休止 5 廃止・終了・管理移管

◎点検評価委員評価

総合評価	A	A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない
点検評価委員 コメント	・公会計化に伴う状況の変化を踏まえ、適切な学校給食運営に向けて指標を含めた検討とメリットの定着を期待したい。 ・公会計化による利便性の向上を活かしつつ、保護者の養育の下で食育の推進と地産地消を継続し、子どもたちが食への感謝を育む学校給食の運営に努めていただきたい。	

令和6年度 稲美町教育委員会評価調書

事業名		15 人権教育啓発事業		事業費 (千円)	5年度 [決算]	6年度 [決算]	7年度 [予算]				
					4,339	4,506	4,504				
目的		人権学習を通して、住民の人権意識を高め、差別解消に向けた態度の形成を図り、日常生活において表れる人権意識の涵養に努め、誰もが住みよいまちづくりをめざす。									
根拠法令等		稲美町ふれあい学習会実施要項 稲美町人権啓発講座「ほっとホットセミナー」実施要項 稲美町じんけんわくわくスクール実施要項				担当課	人権教育課				
第3次 教育振興基本計画 による位置づけ		重点目標	IV－5	地域における住民の人権学習の充実							
		重点事項	(1)	各自治会の課題に応じた学習会の実施							
		重点事項	(2)	住民が関心のある人権課題の講座の実施							
		重点事項	(3)	体験活動を通じた人権教育の推進							
事業を 構成する業務		具体的取組	評価のめやす (単位)	3年度 実績値	4年度 実績値	5年度 実績値	6年度 目標・ 予定値 実績値		自己 評価 ※1	今後の 方向性 ※2	7年度 目標・ 予定値
1	ふれあい学 習会	自治会主体 の人権学習	実施自治会 数(箇所)	17/58	37/58	55/58	52/58	56/58	A	2	57/58
			参加者数 (人)	322	672	1,051	1,200	1,019	B		1,200
2	ほっとホッ トセミナー	住民への人 権啓発講座	満足度 (%)	87.8	94.4	100.0	95.0	97.0	A	2	95.0
			参加者数 (人)	115	160	181	200	205	A		200
3	じんけんわく わくスクール	小学校対象 の体験講座	児童登録 数(人)	79	102	79	80	93	A	2	110
取組の成果		・「ふれあい学習会」は推進員への働きかけが実り、58自治会中56箇所で開催できた。学習会を充実させるため、アドバイザー研修に講師を招聘し、学習会の進め方を工夫した結果、参加者同士の意見交流が活発になった。 ・「ほっとホットセミナー」は内容の充実と継続した啓発活動により、昨年度より参加者が増え、満足度も高く、新たな人権課題について学ぶ場となった。 ・「じんけんわくわくスクール」では毎年多様なプログラムで参加者が増加しており、4割近くの児童が継続して参加している。									
課題と改善策		・「ふれあい学習会」では目標としていた実施自治会数を上回ったが、参加者1200人には届かなかった。アドバイザー研修を継続し、学習会の内容を幅広い年代に周知できるよう、町ホームページや町公式LINEを活用した広報の機会を増やす。 ・「じんけんわくわくスクール」は低学年の参加者が増加したが、高学年のリピーターが少ない傾向にあるため、参加者同士の交流を深め、次年度も参加したいと思えるような運営に努める。									

※1 A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない

※2 1 拡大 2 継続 3 縮小 4 休止 5 廃止・終了・管理移管

◎点検評価委員評価

総合評価	A	A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない
点検評価委員 コメント	・住民参加型の学習会が広く展開され、高水準の満足度を維持できている点を高く評価する。 ・人権教育啓発事業を通じ、住民が互いに誘い合いながら人権について共に考える文化を継続し、新規参加者の増加につながる事業の発展を期待したい。	

令和6年度 稲美町教育委員会評価調書

事業名		16 男女共同参画事業			事業費 (千円)	5年度 [決算]	6年度 [決算]	7年度 [予算]			
						46	74	64			
目的		・第3次稲美町男女共同参画プランの周知に努めるとともに、講演会や研修会を開催し、学習機会を提供する。 ・第3次稲美町男女共同参画プランの進捗状況等を把握し、必要に応じて見直しを図る。									
根拠法令等		男女共同参画社会基本法 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律				担当課	人権教育課				
第3次 教育振興基本計画 による位置づけ		重点目標	IV－5	地域における住民の人権学習の充実							
		重点事項	(4)	男女共同参画社会の推進							
事業を 構成する業務		具体的取組	評価のめやす (単位)	3年度 実績値	4年度 実績値	5年度 実績値	6年度 目標・ 実績値		自己 評価 ※1	今後の 方向性 ※2	7年度 目標・ 予定値
1	稲美町男女 共同参画推 進懇話会の 開催	懇話会の開 催状況	実施回数 (回)	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	A	2	1/1
			女性委員の 人数(人)	5/7	5/7	5/7	4/7	4/7	A		4/7
2	第3次プラン 取組	プランの進 捗状況	A評価の 割合(%)	21.2	64.0	71.9	75.3	77.5	A	2	78.7
			(Aの数/全 施策数)	18/65	57/89	64/89	67/89	69/89			70/89
3	男女共同参画 セミナーの開 催	住民への啓 発講座	参加者数 (人)	中止	38	35	50	36	B	2	50
取組の成果		・プランの点検項目においてA評価を得た課が増加し、前年度より積極的な取組が進んでいる。特に総務課やこども課では、子育て世代へのアプローチが効果的に行われている。一方で施策の中でC評価もあり、A・B評価への引き上げには障壁が大きく、県の補助事業を活用するなど改善できるものについては情報提供を行い、プランの遂行を促している。 ・男女共同参画センターからの広報活動では、住民への認知度を高めるために各課窓口でのチラシ配布など積極的な広報活動を行い、最新の情報を提供できた。									
課題と改善策		・第3次プランで示した内容について、各課での反省や課題を共有し、目指すべき取組を実行できるよう、人権教育課から発信していく。 ・男女共同参画に関する広報は継続して行っているが、住民への認知度は依然として低い。今後は他課とも連携し、セミナーや関連活動のチラシ配布を通じ、啓発活動を一層積極的に展開していく。									

※1 A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない

※2 1 拡大 2 継続 3 縮小 4 休止 5 廃止・終了・管理移管

◎点検評価委員評価

総合評価	A	A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない
点検評価委員 コメント	・第3次プランの進捗会議が確実に進み、A評価の割合が増加している点を高く評価する。 ・令和3年度から3年間で実績値が約3倍に伸びた成果を踏まえ、住民にとって意味のある啓発活動を通じて、男女共同参画社会のさらなる推進を期待したい。	

令和6年度 稲美町教育委員会評価調書

事業名	17 生涯学習校区まちづくり事業			事業費 (千円)	5 年度 [決算]	6 年度 [決算]	7 年度 [予算]				
					3,323	3,122	3,545				
目的	各校区内における「こころ豊かなまちづくり」(生涯学習)に関する事業を総合的・効果的に推進するため、関係団体の相互連携・協力を図り、事業の企画及び連絡調整を行い、住民の自己学習活動の進展に資するとともに、こころ豊かなまちづくりを推進する。										
根拠法令等	教育基本法第3条、社会教育法第3条、稲美町立天満南小学校施設の開放に関する規則、まちづくりの加古の会会則、母の里まちづくりの会会則、まちづくり天満会則、なんなんまちづくりの会会則、こころ豊かなまちづくり東会則				担当課	生涯学習課					
第3次 教育振興基本計画 による位置づけ	重点目標	Ⅳ－1	生涯学習社会実現のための基盤整備								
	重点事項	(4)	ライフステージに応じた学びの充実								
	重点目標	Ⅳ－4	住民協働の推進								
	重点事項	(1)	住民が主体となって参画・協働する仕組みづくりの推進								
事業を 構成する業務	具体的取組	評価のめやす (単位)	3 年度 実績値	4 年度 実績値	5 年度 実績値	6 年度 目標・ 予定値	6 年度 実績値	自己 評価 ※1	今後の 方向性 ※2	7 年度 目標・ 予定値	
1	桜ウォーキング	5 校区でそれぞれ開催	参加者数 (人)	891	1,218	1,284	1,300	1,275	B	2	1,300
2	夏祭り等	加古・母里・天満で開催 南は秋イベント	参加者数 (人)	中止	中止	5,679	5,000	6,231	A	2	5,500
3	天満南小 なんなん広場	コミュニティルーム、 会議室、学習室、ラウンジ	利用者数 (人)	6,131	11,412	14,281	12,000	12,470	A	2	12,000
取組の成果		・自治会、子ども会、シニアクラブ、PTA、交通安全連絡協議会、消防団、防犯協会、民生委員児童委員、生涯学習推進員、教職員、学校開放管理指導員など、多くの関係団体および公募委員の参画を得て、各校区で特色のあるまちづくり活動を展開できた。 ・「天満南小なんなん広場」は、事業を継続して実施することにより近年の利用者数の増加につながった。									
課題と改善策		・委員会への推薦母体から充て職での参画が難しい団体もあるが、今後も行政、自治会、各種団体との連携・協働した取組を発信し、住民の意識を高め、強い絆を築く仕組みを構築し、地域コミュニティの形成をめざした活動を推進する。 ・活動拠点となる県民交流広場事業で整備した施設・設備の老朽化が懸念されるため、引き続き必要な管理・修繕等を計画的に実施し、誰もが利用しやすい環境の整備に努める。									

※1 A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない

※2 1 拡大 2 継続 3 縮小 4 休止 5 廃止・終了・管理移管

◎点検評価委員評価

総合評価	A	A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない
点検評価委員 コメント	- 委員会の構成の多様化と施設の老朽化対応を含め、持続可能な運営体制の構築に努めていただきたい。 - 生涯学習という観点から、子どもから高齢者まで幅広い方の参画を得ながら、まちづくりに関わる事業が広く展開されるような取組の推進を期待したい。	

令和6年度 稲美町教育委員会評価調書

事業名		18 学校・家庭・地域の連携協力推進事業			事業費 (千円)	5年度 [決算] 3,758	6年度 [決算] 3,698	6年度 [予算] 4,401			
目的		地域・家庭・学校の連携・協力のもと、幅広い地域住民等が参画し、未来を担う子どもの成長を支え、生きる力と夢を育むとともに、地域の活性化を図る体制を構築することをめざす。									
根拠法令等		社会教育法第5条第2項、第9条の7、稲美町地域学校協働活動推進員設置要綱、稲美町学校・家庭・地域の連携協力推進委員会設置要綱				担当課	生涯学習課				
第3次教育振興基本計画による位置づけ		重点目標	Ⅲ－1	学校・家庭・地域の連携、協働の推進							
		重点事項	(5)	地域学校協働活動「いなみいきいき共育ネット」の充実							
事業を構成する業務		具体的取組	評価のめやす (単位)	3年度 実績値	4年度 実績値	5年度 実績値	6年度 目標・予定値 実績値		自己評価 ※1	今後の方向性 ※2	7年度 目標・予定値
1	土曜体験活動	各校区3回程度開催	参加者数 (人)	172	363	391	300	456	A	2	400
2	地域未来塾 (学習支援)	各校区8回程度開催	参加者数 (人)	230	168	186	170	142	B	2	130
3	放課後こども教室	各校区12回程度開催	参加者数 (人)	65	43	48	50	55	B	2	50
4	学校協働ボランティア	小中学校ごとに設置	活動日数 (延べ日数)	976	777	1,617	700	983	A	2	900
取組の成果		・未来を担う子どもを健やかに育むため、学校・家庭・地域の連携協力のもと、土曜体験活動(主に土曜日、各校区3回程度)、地域未来塾(土曜日年8回程度、5・6年生対象、算数の個別支援)、放課後子ども教室(金曜日放課後、年12回程度、1年生対象、絵本読み聞かせ、将棋)、学校協働ボランティア(各小中学校で環境整備等)の各事業を一体的かつ総合的に実施することができた。 ・小学校区ごとに地域コーディネーターを配置し、地域学校協働本部において協議を重ねることで、効果的な事業運営につながった。									
課題と改善策		・学校・家庭・地域が役割分担しながら連携し、地域における多様な学習・文化・スポーツ・体験活動等の機会を充実させる必要があるため、地域学校協働本部において、各取組の内容や方法を協議する。 ・活動の充実とコスト削減の両立を図るため、JAの「ふあ～みん食農教育支援金」の補助事業を活用するなど、今後も外部資源の積極的な導入を検討する。 ・さまざまな習い事で忙しく活動に参加しにくい児童も一定数いるため、参加しやすい方法について今後協議する。									

※1 A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない

※2 1 拡大 2 継続 3 縮小 4 休止 5 廃止・終了・管理移管

◎点検評価委員評価

総合評価	A	A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない
点検評価委員 コメント	・子どもたちの多様な生活スタイルに対応した柔軟な事業設定と、外部資源の活用によるの安定的な運営を図っていただきたい。 ・地域と学校の温かなまなざしのもと、子どもたちが地域で多様な体験や学びを得られる機会となるよう、事業のさらなる展開を期待したい。	

令和6年度 稲美町教育委員会評価調書

事業名		19 町史編さん事業			事業費 (千円)		5年度 [決算]	6年度 [決算]	7年度 [予算]		
							783	806	3,110		
目的		稲美町史発行から約 40 年が経過し、令和 4 年度から新たな町史の編さんに着手している。総合的で体系的な町史を編さん・発行することにより、住民の郷土に対する理解を深めるとともに、町に関する貴重な歴史資料を網羅的に収集、整理、保存し、次の世代へ継承する。									
根拠法令等		稲美町史編さん委員会設置要綱					担当課		生涯学習課		
第3次 教育振興基本計画 による位置づけ		重点目標	IV－3	芸術・文化の向上							
		重点事項	(4)	歴史文化活動の推進							
事業を 構成する業務		具体的取組	評価のめやす (単位)	3年度 実績値	4年度 実績値	5年度 実績値	6年度		自己 評価 ※1	今後の 方向性 ※2	7年度 目標・ 予定値
							目標・ 予定値	実績値			
1	地区委員会 の開催	加古・母里・ 天満・3地 区合同	開催回数 (回)	—	1	7	9	7	B	2	9
2	座談会等の 開催	加古・母 里・天満・ その他	開催回数 (回)	—	21	45	30	36	A	2	30
3	古文書入門 講座の開催	6回コース で開催	参加者数 (人)	—	15	14	15	22	A	2	15
取組の成果		・令和8年度から「加古地区編」「母里地区編」「天満地区編」を順次発行し、令和12年度には全地域・全分野を網羅する「通史編」、令和13年度には歴史研究の成果や編さんに使用した文献・遺物を編集した「史料編」の発行を予定しており、その準備を着実に進めることができた。									
課題と改善策		・町史を郷土理解の教材として位置づけ、次代を担う子どもの学びにつながる副読本等として整備していく。 ・今般の町史編さんは、生活に密着した地域編の発行が特徴であるため、写真やイラスト等を多く盛り込み、住民が手に取りやすい地域編の発行となるよう事業を展開する。 ・歴史の証人となる地域の人材の高齢化が進む中、町史編さんに関わる委員や職員もベテランが中心となっている。令和13年まで続く長期間の業務において、後継人材の確保も課題となっているため、候補者を広く募り、引き継ぎ体制の整備に努めていく。									

※1 A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない

※2 1 拡大 2 継続 3 縮小 4 休止 5 廃止・終了・管理移管

◎点検評価委員評価

総合評価	A	A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない
点検評価委員 コメント	・長期的な事業継続に向けて、若手人材の育成と円滑な引き継ぎ体制の整備を図っていただきたい。 ・稲美町の歴史を子どもたちが学ぶ機会となるよう、副読本が教育現場で活用され、地域の理解と愛着を育む取組として継続発展されることを期待したい。	

令和6年度 稲美町教育委員会評価調書

事業名		20 水辺の里公園管理運営事業		事業費 (千円)		5年度 [決算]		6年度 [決算]		7年度 [予算]	
						18,096		20,779		25,258	
目的		水辺の豊かな自然の中での小動物等とのふれあいを通じ、住民の文化活動やレクリエーション活動を促進し、あわせて住民の憩いの広場を提供することを目的とする。									
根拠法令等		稲美町立いなみ野水辺の里公園の設置及び管理に関する条例 同管理運営施行規則、同管理運営協定書 稲美町公の施設に係る指定管理者の指定手続き等に関する条例					担当課		生涯学習課		
第3次 教育振興基本計画 による位置づけ		重点目標	IV－4		住民協働の推進						
		重点事項	(2)		社会教育施設等の活用と推進						
事業を 構成する業務		具体的取組	評価のめやす (単位)	3年度 実績値	4年度 実績値	5年度 実績値	6年度		自己 評価 ※1	今後の 方向性 ※2	7年度 目標・ 予定値
							目標・ 予定値	実績値			
1	施設の管理 運営	公園の開園	開園日数 (日)	306	306	307	305	304	A	2	306
2		ホタル観賞を 含む各種イベ ントや花見	入場者数 (人)	50,055	56,749	58,286	58,300	63,537	A	2	59,500
取組の成果		- 令和6年度の開園日数は305日であったが、台風の影響による安全対策として1日休園とした。 - 指定管理者「環境ユースイングてんま」において、自主運営事業から地域連携事業、支援・協働事業、広報情報発信事業、ホタル育成事業といった事業を実施し、新たな住民ニーズを把握するとともに、住民参画型の協働活動を展開することで、来園者や教室・イベント等の参加者の増加につながった。 - ホタル事業においては、安全対策や広報PRに取り組んだことで、1万人を超える来園者を受入れるイベントの開催が実現した。									
課題と改善策		- 来園者の安全確保のため、管理棟ログハウス、ウッドデッキ、橋などの老朽化がみられる設備について、必要な修繕を計画的に実施していく。 - 樹木の伐採や剪定を計画的に行い、来園しやすい快適な環境を整備する。									

※1 A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない

※2 1 拡大 2 継続 3 縮小 4 休止 5 廃止・終了・管理移管

◎点検評価委員評価

総合評価	A	A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない
点検評価委員 コメント	- 安全管理の強化を図り、地域の憩いの場として公園の機能がより充実するような取組を推進していただきたい。 - 美しい自然の中で住民が集い、安心して過ごせる公園づくりと、老朽化対策を含めた計画的かつ適切な管理を期待したい。	

令和6年度 稲美町教育委員会評価調書

事業名	21 生涯スポーツ推進事業			事業費 (千円)	5年度 [決算] 5,213	6年度 [決算] 6,748	7年度 [予算] 7,580			
目的	・ 会員が日常生活の中で自発的にスポーツを楽しみ、各自の健康・体力を保持増進するとともに、相互の親睦を図り、地域社会の連携を深め、明るく豊かな生活の実現や青少年の健全育成に資する ・ 稲美町スポーツ推進計画の目標の一つである「“する・みる・ささえる” スポーツの推進」を進めるため、トップアスリートを招いて講演会やスポーツ教室を開催する。世界レベルの力を間近で感じることで、スポーツの楽しさを共有し、運動・スポーツを楽しむ習慣の定着を図る。									
根拠法令等	スポーツクラブ 21 いなみ規約				担当課	生涯学習課				
第3次 教育振興基本計画 による位置づけ	重点目標	IV-2	生涯にわたるスポーツの推進							
	重点事項	(1) (2)	地域における身近なスポーツ環境の整備 各世代間のスポーツ交流の推進							
事業を 構成する業務		具体的取組	評価のめやす (単位)	3年度 実績値	4年度 実績値	5年度 実績値	6年度 目標・ 予定値 実績値	自己 評価 ※1	今後の 方向性 ※2	7年度 目標・ 予定値
1	スポーツクラブ 21 いなみ事業	種目開催、全体交流会	会員数 (人)	486	481	511	550 498	B	2	550
2	トップアスリート招待事業	講演会、実技指導	参加者数 (人)	—	—	60	100 33	C	2	450
取組の成果			・ バスケットボール、バレーボール、バドミントン等の種目活動に加え、全体交流会や町の委託事業である町民体力測定等を実施したことで、スポーツを楽しむことや健康・体力の保持増進、親睦を図るといった事業目的を達成することができた。 ・ 山陽特殊製鋼陸上部のメンバーや松井晶氏、八木美羽氏、福田有以氏（稲美町出身選手）を招いてランニング教室を開催し、小学生がトップアスリートと交流する機会を提供できた。いなみ野ため池駅伝にあわせて開催したことで、ゲストランナーが駅伝参加者と一緒に走り、イベントを盛り上げた。							
課題と改善策			・ 事業の継続的な運営に向けては、人員や資金の確保が課題であり、新たな人材の発掘と財源の確保について検討する必要がある。 ・ 今後の開催にあたっては、種目や対象者の選定方法を検討する必要がある、アンケート等を活用してニーズを的確に把握し、事業内容の最適化に努める。							

※1 A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない

※2 1 拡大 2 継続 3 縮小 4 休止 5 廃止・終了・管理移管

◎点検評価委員評価

総合評価	B	A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない
点検評価委員 コメント	・地域ニーズに基づいた柔軟な種目設定と、地元企業との協賛連携による安定的な資金確保に努めていただきたい。 ・生涯スポーツの観点から、任意参加型の教室にとどまらず、教育現場等でも幅広くトップアスリートと交流できる機会へと発展することを期待する。	

令和6年度 稲美町教育委員会評価調書

事業名	22 スポーツ施設管理運営事業			事業費 (千円)	5年度 [決算] 41,482	6年度 [決算] 39,802	7年度 [予算] 338,501				
目的	・スポーツ施設の管理運営に必要な各種業務を適正に行うことで利用者による施設利用時の満足度を高める。 ・地域における身近なスポーツ環境の整備を進め、スポーツに関わる機会や親しむ機会を提供する										
根拠法令等	稲美町スポーツ施設の設置及び管理に関する条例 同施行規則				担当課	生涯学習課					
第3次 教育振興基本計画 による位置づけ	重点目標	IV-2	生涯にわたるスポーツの推進								
	重点事項	(1)	地域における身近なスポーツ環境の整備								
事業を 構成する業務		具体的取組	評価のめやす (単位)	3年度 実績値	4年度 実績値	5年度 実績値	6年度		自己 評価 ※1	今後の 方向性 ※2	7年度 目標・予定 値
							目標・ 予定値	実績値			
1	施設利用申請 受付	施設利用申 請	申請数 (件)	12,671	10,430	10,122	11,000	9,920	B	2	11,000
2	身近なスポー ツ環境の整備	アーバンス ポーツ施設 の利用	利用者 数(人)	-	-	-	-	-	B	2	-
取組の成果			・令和7年3月から体育施設のインターネット予約システムの供用を開始し、早朝や夜間から窓口に並ぶ必要がなくなり、利用者の利便性が向上した。 ・令和6年度からアーバンスポーツ施設の整備に向けた調査設計業務に着手しており、社会実験を実施した際の利用者数は幅広い年齢層の約100名で、アンケート調査でも「完成後にはぜひ利用したい」といった期待の声が多数寄せられた。								
課題と改善策			・令和7年度に体育センターの空調設備整備工事を進めている。使用料等の見直しについても検討し、利用者への周知を計画的に進めていく。 ・令和7年度に予定しているアーバンスポーツ（スケートボード場、3×3コート（3人制バスケットコート）など）施設整備工事に合わせて、適切な管理方法を定め、多くの人に利用される施設となるよう制度設計を進めていく。								

※1 A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない

※2 1 拡大 2 継続 3 縮小 4 休止 5 廃止・終了・管理移管

◎点検評価委員評価

総合評価	B	A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない
点検評価委員 コメント	・インターネットシステムの導入による利便性の向上に加え、利用者満足度のさらなる向上につながる運用を期待したい。 ・生涯スポーツの推進に資するインターネットシステムの構築は評価できるが、アーバンスポーツの内容が広く親しまれるよう、より多くの住民に魅力を伝える広報の充実を期待したい。	

令和6年度 稲美町教育委員会評価調査

事業名	23 図書館管理運営事業			事業費 (千円)	5年度 [決算] 2,294	6年度 [決算] 2,552	7年度 [予算] 2,712			
目的	・町内在住・在勤者がタブレット等で24時間電子書籍を閲覧できる電子図書館を提供し、利便性の高い多様な図書館サービスを実現する。 ・図書館司書が各小学校のニーズに応じて学校図書館と連携し、円滑に運営できるよう支援する。									
根拠法令等	稲美町立図書館の設置及び管理に関する条例、同施行規則、図書館学校連携事業実施要項				担当課	文化の森課				
第3次 教育振興基本計画 による位置づけ	重点目標	Ⅲ－1	地域とともに育てる							
	重点事項	(3)	学校図書館の充実							
	重点目標	Ⅳ－3	芸術・文化の向上							
	重点事項	(2)	図書館運営の充実							
事業を 構成する業務		具体的取組	評価のめやす (単位)	3年度 実績値	4年度 実績値	5年度 実績値	6年度 目標・ 予定値 実績値	自己 評価 ※1	今後の 方向性 ※2	7年度 目標・ 予定値
1	電子図書館サ ービス事業	普及啓発・読書 環境の整備等	利用登録 者数(人)	—	6,499	9,008	9,500 9,651	A	2	10,000
			貸出・閲覧 数	—	5,753	19,637	20,000 10,296	B	2	11,000
2	図書館学校 連携事業	学校図書館へ の各種支援	支援(訪 問)回数 (回)	63	120	119	120 140	A	2	140
取組の成果		・町内小中学生を対象に、令和5年度から電子図書館への利用登録を一括実施し、1人1台端末を継続活用して子どもの読書環境を整備した。 ・新入児童に対する図書室利用オリエンテーションを図書館司書が学校訪問日に実施するなど、各小学校のニーズを踏まえて担当教諭と連携し、図書館学校連携事業を順調に実施した。								
課題と改善策		・同じ本を同時に読むことが可能な電子書籍「読み放題」を継続導入し、小中学生の読書活動に活用するとともに、その他の年代にはチラシ作成等で電子図書館の利用促進を図る。 ・学校図書担当教諭や図書ボランティアの連携を深め、学校図書館が円滑に運営できるよう各校のニーズに応じた支援の充実に努める。								

※1 A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない

※2 1 拡大 2 継続 3 縮小 4 休止 5 廃止・終了・管理移管

◎点検評価委員評価

総合評価	A	A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない
点検評価委員 コメント	・学校図書館のニーズを的確に把握しつつ、司書教諭との連携を深めながら、図書館司書の活用促進に継続的に取り組んでいただきたい。 ・1人1台端末の活用による電子書籍への接点の提供に加え、世代を超えた利用促進に向けた広報活動を通じて、住民が図書館に親しみを持てるような管理運営に努めていただきたい。	

令和6年度 稲美町教育委員会評価調書

事業名			24 公民館管理運営事業				事業費 (千円)		5年度 [決算]	6年度 [決算]	7年度 [予算]	
							6,838		6,201	8,495		
目的			生涯学習の拠点として住民一人一人の生活文化を高める機会と場を提供し、生きがいづくり・心身健康増進及び芸術文化の振興を図るとともに、さらなる生涯学習の一層の推進と文化の向上をめざす。									
根拠法令等			稲美町立公民館の設置及び管理に関する条例、同施行規則					担当課		文化の森課		
第3次 教育振興基本計画 による位置づけ			重点目標	IV－1	生涯学習社会実現のための基盤整備							
			重点事項	(4) (5)	ライフステージに応じた学びの充実・ 高齢者の地域貢献活動の推進							
			重点目標	IV－3	芸術・文化の向上							
			重点事項	(1)	公民館活動の推進							
事業を 構成する業務			具体的取組	評価のめやす (単位)	3年度 実績値	4年度 実績値	5年度 実績値	6年度		自己 評価 ※1	今後の 方向性 ※2	7年度 目標・ 予定値
1	あたご大学 (高齢者大学)	各種講座の 実施	学生数(人)	436	340	294	300	306	A	2	300	
			出席率(%)	-	77	76	78	76	B	2	78	
2	はたちのつどい	式典の開催	参加率(%)	80	80	76	80	81	A	2	80	
3	公民館事業・ 貸館等	展示・講座・ 貸館	利用者数 (人)	30,801	49,953	46,744	42,000	42,181	A	2	42,000	
取組の成果			・あたご大学（高齢者大学）は講座内容を精査し、高齢者の生きがいづくりに資する魅力の向上に努めた結果、学生数は306人となった。 ・「はたちのつどい」は実行委員会が主体的に企画・運営した結果、多くの新成人が参加する機会を創出できた。 ・公民館事業では、登録サークルの講師を招いて子ども向けの体験教室を実施し、活動発表の場を設けたことで、子どもと現サークル会員との異世代交流の機会を提供できた。									
課題と改善策			・施設の魅力向上とともに、より積極的な利用を促すため、令和6年度は空調設備の改修更新を行った。今後も計画的な改修を進める。 ・体験教室をはじめとする子ども向けの講座を充実し、積極的に事業展開を行うことにより、現在の利用者に加え、将来の利用者層の拡大を図る。									

※1 A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない

※2 1 拡大 2 継続 3 縮小 4 休止 5 廃止・終了・管理移管

◎点検評価委員評価

総合評価	A	A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない
点検評価委員 コメント	・将来の公民館利用者を育む観点から、子ども向けの講座等の積極的なPRによる参加促進を図っていただきたい。 ・稲美町唯一の公民館として、住民が集い、交流する魅力を発信できるような運営と事業展開の充実を期待したい。	

令和6年度 稲美町教育委員会評価調書

事業名		25 文化会館管理運営事業			事業費 (千円)	5年度 [決算]	6年度 [決算]	7年度 [予算]			
						24,945	23,878	30,963			
目的		芸術・文化に理解と見識を有する人材の発掘・登用に努めるとともに、多様化・高度化する文化活動に的確に対応し、住民の芸術・文化活動への意欲の向上を図る。									
根拠法令等		稲美町立文化会館の設置及び管理運営に関する条例、同施行規則				担当課	文化の森課				
第3次 教育振興基本計画 による位置づけ		重点目標	IV-3	芸術・文化の向上							
		重点事項	(3)	芸術・文化活動の推進							
事業を 構成する業務		具体的取組	評価のめやす (単位)	3年度 実績値	4年度 実績値	5年度 実績値	6年度		自己 評価 ※1	今後の 方向性 ※2	7年度 目標・ 予定値
							目標・ 予定値	実績値			
1	自主事業	いなみとき めき講座他 11事業	入場者数 (人)	2,382	3,654	5,609	4,200	5,102	A	2	5,000
2	貸館事業	舞踊、芸能 等発表会、 講演会等	入場者数 (人)	11,965	19,867	25,087	18,000	26,854	A	2	20,000
取組の成果		・設備改修に伴い休館したが、コスモ吹奏楽祭や夢コンサートなどの自主事業を実施した結果、入場者数は5,102人となった。 ・定期的に広報紙やホームページ等で自主事業について周知した結果、芸術・文化の情報発信を行うことができた。									
課題と改善策		・老朽化した空調設備の改修及び消防設備の更新が必要であり、段階的な改修計画の策定を進める。 ・豊かな地域社会の形成と生きがいの創出に向けて、従来の広報媒体に加え、SNS等の多様な手段を活用し、芸術・文化の魅力をより広く発信する。									

※1 A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない

※2 1 拡大 2 継続 3 縮小 4 休止 5 廃止・終了・管理移管

◎点検評価委員評価

総合評価	A	A 十分できている B できている C あまりできていない D できていない
点検評価委員 コメント	・入場者数などの量的な指標に加え、利用者の満足度など質的な側面の評価も集約し、運営改善に活かしていただきたい。 ・子どもから高齢者までが気軽に訪れ、芸術・文化に親しめる集いの場として、施設機能のさらなる発展を期待したい。	

3 令和 6 年度教育振興基本計画事務事業評価一覧表

基本目標Ⅰ 夢と志を育てる

重点目標 (重点事項)	事業名	目的	総合 評価	講 評
1 確かな学力の定着 (1) 学習指導要領に対応した学力の向上) (2) 新しい時代に求められる資質・能力の育成)	研修・評価事業	・子どもたちに質の高い教育を提供するとともに、さまざまな教育課題に適切に対応するため、教職員の資質と実践的な指導力の向上を図る。 ・学習指導要領において、全ての学習の基盤となる言語能力の育成が重視されており、子どもたちがことばの魅力を感知、ことばの力を獲得することとをめざして、教員研修を推進する。	A	・研修効果については、量的な側面（実施回数、参加人数など）だけでなく、質的な側面（満足度、理解度、効果など）に重点を置いて把握に努めていただきたい。 ・1人1台端末を活用したICT教育やユニバーサルデザインといった幅広い観点から、ことばの魅力を感知、ことばの力を育成していきけるよう努めていただきたい。
1 確かな学力の定着 (1) 学習指導要領に対応した学力の向上) (2) 新しい時代に求められる資質・能力の育成) (3) さまざまな形態による学習の推進) 2 豊かな心の育み (1) 道徳教育の推進) (5) 読書活動の推進)	学校園運営事業、教育振興事業(1)	・児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育指導の充実と改善に役立てる。 ・人間が本来持つ「よりよく生きたい」という願いや、よりよい生き方を求め実践する力の育成をめざし、その基盤となる道徳性を養う。 ・子どもたちが読書活動を通して感性を磨き、読解力や表現力を高めることができるよう、学校図書館環境の整備・充実をめざるとともに、多様な本にふれる機会の提供等、読書習慣の定着と読書意欲の向上を図る。	B	・小学校算数・中学校数学における「わかる授業」の実現に向け、課題を的確に共有し、着手可能な取組から着実に進められることを期待する。 ・デジタル媒体が家庭にも普及している現代において、学校教育でのICT活用を検討し、授業や読書活動への効果的な活用を進めていただきたい。
2 豊かな心の育み (2) 体験活動の推進（小・中学校における体験活動の推進）	学校体験活動事業	自然や社会、芸術文化にふれる体験や学校家庭地域の連携を通じ、主体性を尊重した体験活動により、子ども一人一人が豊かな人間性と社会性を育む。	A	・体験格差が指摘される中で、児童生徒の豊かな人間性や社会性を育むため、より充実した体験活動の取組の展開を期待したい。 ・多様な児童生徒が心を開けるような取組の企画・展開を通じて、誰もが参加しやすい体験活動の推進を期待したい。

基本目標Ⅰ 夢と志を育てる

重点目標 (重点事項)	事業名	目的	総合評価	講評
2 豊かな心の育成 (3 心の教育の充実) (6 青少年の健全育成)	生き力を育むための小・中連携推進事業(含心の教育充実事業)	・都市化や少子化、核家族化などにより、地域における連帯感が希薄化する中で、子どもたちの自尊感情を高め、人間関係を築く力や社会性を育成する。 ・児童生徒支援員の配置により、問題行動の未然防止、早期発見、早期対応を図る。	B	・いじめや不登校の事案に対して、早期発見・早期対応を可能とする組織的な体制づくりに努めていただいた。 ・登校に課題のある児童生徒に寄り添い、一人ひとりの小さな成長を的確に捉えた丁寧な支援を継続していただいた。
3 健やかな体の育成 (1 体力運動能力向上への取組)	学校園運営事業、教育振興事業(2)	・運動の特性や魅力にふれ、体育・スポーツ活動の楽しさや喜びを体験すること、健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する。資質・能力を育成する。	A	・令和10年度の部活動地域展開の完全実施に向けて、各種条件整備を計画的に進め、円滑に機能する体制の構築を期待する。 ・スポーツへの思いや能力の両方に焦点を当て、子どもたちが自らの興味関心に基づいた選択ができる事業になるよう、学校・地域での展開を期待したい。
3 健やかな体の育成 (2 食育の推進・充実(地産地消の推進))	学校給食運営事業	・成長期にある児童生徒の心身の発達のため、地場産物の活用し、バランスのとれた栄養豊かな食事を提供することにより、健康の増進及び体位の向上を図る。 ・日常生活における正しい食習慣を身に付け、食事を共にすること、で、好ましい人間関係を育成する。	A	・公会計化に伴う状況の変化を踏まえ、適切な学校給食運営に向けて指標を含めた検討とメリットの定着を期待したい。 ・公会計化による利便性の向上を活かしつつ、保護者の養育の下で食育の推進と地産地消を継続し、子どもたちが食への感謝を育む学校給食の運営に努めていただいた。
4 生き方の探求、社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成 (1 キャリア教育の推進) (2 幼小中一貫した国際理解教育の推進)	魅力あるいなみの教育事業	・国際理解教育を低年齢期より始めることにより、グローバル化する社会の一員として主体的に行動する素地を養う。 ・児童生徒に生きる力を育むこと、めざし、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する。	A	・事業の継続的な実施とともに、多岐にわたる取組に対応した評価・成果指標を検討していただきたい。 ・子どもたちの多様性が重視される時代だからこそ、特に性に合った事業の展開と客観的な評価指標の導入を進めていただきたい。

基本目標Ⅰ 夢と志を育てる

重点目標 (重点事項)	事業名	目的	総合 評価	講 評
4 生き方の探求、社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成 (3 情報教育の推進)	ICT利活用推進事業	・ICT機器を活用した教科指導により、学習活動の充実を図る。 ・学校における校務のICT化を進め、業務の効率化により教職員の勤務時間の適正化を図る。	A	・端末の整備・更新をはじめ、教育実践において更なるICTの利活用を図る取り組みの推進を期待する。 ・ICT機器の利活用を進めるとともに、ICTでは成しえなない教育の大切さにも留意し、バランスの取れた教育実践を展開していただきたい。

基本目標Ⅱ 学びを支える基盤をつくる

重点目標 (重点事項)	事業名	目的	総合 評価	講 評
1 持続可能な学校指導体制の充 実 (2 教職員の資質向上) (3 個に応じたきめ細やかな指導 の充実)	研修・評価事業【再掲】	- 子どもたちに質の高い教育を提供するとともに、さまざまな教育課題に適切に対応するため、教職員の資質と実践的な指導力の向上を図る。 - 学習指導要領において、全ての学習の基盤となる言語能力の育成が重視されており、子どもたちがことばの魅力を感知、ことばの力を獲得することとをめざして、教員研修を推進する。	A	- 研修効果については、量的な側面（実施回数、参加人数など）だけでなく、質的な側面（満足度、理解度、効果など）に重点を置いた把握に努めていただきたい。 1人1台端末を活用したICT教育やユニバーサルデザインといった幅広い観点から、ことばの魅力を感知、ことばの力を育成していきけるよう努めていただきたい。
2 特色ある教育活動の展開 (1 地域の教育資源の活用) (3 ふるさと意識を醸成する教育の推進)	魅力あるいなみの教育事業 【再掲】	- 国際理解教育を低年齢期より始めることにより、グローバル化する社会の一員として主体的に行動する素地を養う。 - 児童生徒に生きる力を育むことをめざし、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する。	A	- 事業の継続的な実施とともに、多岐にわたる取組に対応した評価・成果指標を検討していただきたい。 - 子どもたちの多様性が重視される時代だからこそ、特に性に合った事業の展開と客観的な評価指標の導入を進めていただきたい。
2 特色ある教育活動の展開 (2 特色ある学校運営協議会の運営)	コミュニティ・スクール推進事業	- 地域住民や保護者等が学校運営に参画する仕組みである学校運営協議会制度を導入し、コミュニティ・スクールの活動に充実させる。 - 学校運営協議会による意見や評価をもとに、地域と学校が連携して学校運営の改善を図る。	A	- 児童生徒が主体的に地域に関わる活動の充実が図られ、目標値を大きく上回る成果を上げている点を高く評価する。 - 児童生徒と地域住民が相互に稲美町の魅力を高め合う交流活動となるよう、今後の更なる推進に期待したい。
3 安全・安心な教育環境の整備と 安全教育の充実 (1 学校施設の改善と充実（施設維持管理）)	学校園施設維持管理事業	充実した教育活動を行うために、高機能かつ多機能な施設環境を備えるとともに、豊かな人間性を育むにふさわしい快適で安全性、防災性、防犯性に優れた衛生的な環境を整備する。	—	- 事業の特性を考慮し、目標・実績・成果や指標設定のあり方について、今後さらに検討を深めていただきたい。 - 子どもたちの安心安全な教育環境を保持するため、必要性・切迫度の高い学校園からの適切な経費支出と運営を期待したい。

基本目標Ⅱ 学びを支える基盤をつくる

重点目標 (重点事項)	事業名	目的	総合評価	講評
3 安全・安心な教育環境の整備と 安全教育の充実 (1 学校施設の改善と充実(施設 維持管理))	ICT利活用推進事業【再 掲】	・ICT機器を活用した教科指導によ り、学習活動の充実を図る。 ・学校における校務のICT化を進 め、業務の効率化により教職員の勤 務時間の適正化を図る。	A	・端末の整備・更新をはじめ、教育実践において更なる ICTの利活用を図る取り組みの推進を期待する。 ・ICT機器の利活用を進めるとともに、ICTでは成しえな い教育の大切さにも留意し、バランスの取れた教育実践 を展開していただきたい。
3 安全・安心な教育環境の整備と 安全教育の充実 (3 児童生徒の安全対策の推進 (登下校の安全))	交通安全指導事業	通学路の安全点検を定期的に行い、 危険箇所等に関する情報を学校間や 家庭・地域と共有するとともに、稲 美町通学路安全対策協議会を組織 し、関係機関と協議し、順次危険箇 所を整備する。	A	・通学路の安全確保に向けて、地道な活動を支える組織 運営と人員配置の継続的な取組に努めていただきたい。 ・稲美町の子どもたちを温かく見守り、安全を守る機能 として多様な貢献を果たす本事業の継続を期待する。
4 多様なニーズに対応した教育の 充実 (1 特別支援教育の充実) (3 多様なニーズのある児童生徒 への支援)	特別支援教育事業	特別な支援を必要とする幼児児童生 徒に対して、支援の充実を図る。	A	・特別支援教育のニーズの高まりに応じ、個に応じた指 導の充実と教職員研修の継続的な推進に努めていただき たい。 ・公教育だからこそ可能な福祉・医療との連携を強化 し、支援体制の充実を図っていただきたい。
4 多様なニーズに対応した教育 の充実 (2 不登校児童生徒への支援)	生きる力を育むための小・中 連携推進事業(含 心の 教育充実事業)【再掲】	・都市化や少子化、核家族化などに よる地域における連帯感が希薄化 する中で、子どもたちの自尊感情を 高め、人間関係を築く力や社会性を 育成する。 ・児童生徒支援員の配置により、問 題行動の未然防止、早期発見、早期 対応を図る。	B	・いじめや不登校の事案に対して、早期発見・早期対応 を可能とする組織的な体制づくりに努めていただきたい。 ・登校に課題のある児童生徒に寄り添い、一人ひとりの 小さな成長を的確に捉えた丁寧な支援を継続していただ きたい。
5 幼児期の教育の充実 (2 子育ての支援)	幼稚園預かり保育事業	町立幼稚園において、教育課程に係 る時間外に預かり保育を実施するこ とにより、園児の心身の健全な発達 を図るとともに、保護者の子育て支 援を行う。	A	・預かり保育における多様な活動の実績や成果を積極的 にPRし、より一層の利活用の促進につなげていただきた い。 ・女性の社会進出を踏まえ、安心して働き、育児ができ る環境づくりと、家庭では得がたい多様な体験の提供を 充実させ、子育て支援の内容を広く発信していただきたい。

基本目標Ⅲ 地域とともに育てる

重点目標 (重点事項)	事業名	目的	総合評価	講評
1 学校・家庭・地域の連携、協働の推進 (3 学校図書館の充実)	図書館管理運営事業	・町内在住・在勤者がタブレット等で24時間電子書籍を閲覧できる電子図書館を提供し、利便性の高い多様な図書館サービスを実現する。 ・図書館が各小学校のニーズに応じて学校図書館と連携し、円滑に運営できるよう支援する。	A	・学校図書館のニーズを的確に把握しつつ、司書教諭との連携を深めながら、図書館司書の活用促進に継続的に取り組んでいただきたい。 ・1人1台端末の活用による電子書籍への接点の提供に加え、世代を超えた利用促進に向けた広報活動を通じて、住民が図書館に親しみを持てるような管理運営に努めていただきたい。
1 学校・家庭・地域の連携、協働の推進 (5 地域学校協働活動「いなきいき共育ネット」の充実)	学校・家庭・地域の連携協力推進事業	地域・家庭・学校の連携・協力のものと、幅広い地域住民等が参画し、未来を担う子どもの成長を支え、生き生きと夢を育むとともに、地域の活性化を図る体制を構築することを目指す。	A	・子どもたちの多様な生活スタイルに対応した柔軟な事業設定と、外部資源の活用によるの安定的な運営を図っていただきたい。 ・地域と学校の温かなまなざしのもと、子どもたちが地域で多様な体験や学びを得られる機会となるよう、事業のさらなる展開を期待したい。
2 開かれた学校園づくりの推進 (1 コミュニティ・スクールの推進)	コミュニティ・スクール推進事業【再掲】	・地域住民や保護者等が学校運営に参画する仕組みである学校運営協議会制度を導入し、コミュニティ・スクールとしての活動を充実させる。 ・学校運営協議会による意見や評価をもとに、地域と学校が連携して学校運営の改善を図る。	A	・児童生徒が主体的に地域に関わる活動の充実が図られ、目標値を大きく上回る成果を上げている点を高く評価する。 ・児童生徒と地域住民が相互に稲美町の魅力を高め合う交流活動となるよう、今後の更なる推進に期待したい。
3 地域・家庭の教育力の向上と子育て支援 (1 放課後子どもプランの推進 (放課後児童クラブ事業))	放課後児童クラブ管理運営事業	仕事を待つ保護者への子育て支援として、子どもたちに家庭に代わる生活の場を確保し、心身ともに健やかに育成するため、一定の質を備えた施設運営を行う。	A	・利用者の高い満足度を維持できるよう、指定管理者の運営体制について、適時・適切な確認を継続していただきたい。 ・放課後児童クラブがあるからこそ働ける家庭があるという現状を踏まえ、継続的で満足度の高い事業の展開を期待したい。

基本目標Ⅳ 豊かな社会・自己実現をはかる生涯学習を進める

重点目標 (重点事項)	事業名	目的	総合 評価	講 評
1 生涯学習社会実現のための基盤整備 (4 ライフステージに応じた学びの充実) (5 高齢者の地域貢献活動の推進)	公民館管理運営事業	生涯学習の拠点として住民一人一人の生活文化を高める機会と場を提供し、生きがいづくり・心身健康増進及び芸術文化の振興を図るとともに、さらなる生涯学習の一層の推進と文化の向上をめざす。	A	・将来の公民館利用者を育む観点から、子ども向けの講座等の積極的なPRによる参加促進を図っていただきたい。 ・稲美町唯一の公民館として、住民が集い、交流する魅力を発信できるような運営と事業展開の充実を期待したい。
3 芸術・文化の向上 (1 公民館活動の推進)				
1 生涯学習社会実現のための基盤整備 (4 ライフステージに応じた学びの充実) 4 住民協働の推進 (1 住民が主体となつて参画・協働する仕組みづくりの推進)	生涯学習校区まちづくり事業	各校区内における「こころ豊かなまちづくり」(生涯学習)に関する事業を総合的・効果的に推進するため、関係団体の相互連携・協力を図り、事業の企画及び連絡調整を行うことと、住民の自己学習活動の進展に資することとともに、こころ豊かなまちづくりを推進する。	A	・委員会の構成の多様化と施設の老朽化対応を含め、持続可能な運営体制の構築に努めていただきたい。 ・生涯学習という観点から、子どもから高齢者まで幅広い方の参画を得ながら、まちづくりに関わる事業が広く展開されるような取組の推進を期待したい。
2 生涯にわたるスポーツの推進 (1 地域における身近なスポーツ環境の整備)	学校園運営事業、教育振興事業(2)【再掲】	運動の特性や魅力にふれ、体育・スポーツ活動の楽しさや喜びを体験することと、生涯にわたつて心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する。	A	・令和10年度の部活動地域展開の完全実施に向けて、各種条件整備を計画的に進め、円滑に機能する体制の構築を期待する。 ・スポーツへの思いや能力の両方に焦点を当て、子どもたちが自らの興味関心に基づいた選択がでける事業になるよう、学校・地域での展開を期待したい。

基本目標Ⅳ 豊かな社会・自己実現をはかる生涯学習を進める

重点目標 (重点事項)	事業名	目的	総合 評価	講 評
2 生涯にわたるスポーツの推進 (1 地域における身近なスポーツ環境の整備) (2 各世代間のスポーツ交流の推進)	生涯スポーツ推進事業	・会員が日常生活の中で自発的にスポーツを楽しむ、各自の健康・体力を保持増進するとともに、相互の親睦を図り、地域社会の連携を深め、明るく豊かな生活の実現や青少年の健全育成に資する ・稲美町スポーツ推進計画の目標の一つである「“する・みる・ささえる” スポーツの推進」を進めるため、トッパスアリーナを招いて講演会やスポーツ教室を開催すること、世界レベルの力を間近で感じること、スポーツの楽しさを共有し、運動・スポーツを楽しむ習慣の定着を図る。	B	・事業の継続的な運営に向けては、人員や資金の確保が課題であり、新たな人材の発掘と財源の確保について検討する必要がある。 ・今後の開催にあたっては、種目や対象者の選定方法を検討する必要がある、アンケート等を活用してニーズを的確に把握し、事業内容の最適化に努める。
2 生涯にわたるスポーツの推進 (1 地域における身近なスポーツ環境の整備)	スポーツ施設管理運営事業	・スポーツ施設及び文化施設の予約システムを導入することにより、利用者の利便性の向上を図るとともに、事務の省力化、効率化を図ることを目的とする。 ・スポーツ施設の管理運営に必要な各種業務を適正に行うことで利用者による施設利用時の満足感を高めることを目的とする。	B	・予約システムの新規導入がよりスムーズに、町民にとって有益かつ利便性の向上につながる取組となることを期待する。
3 芸術・文化の向上 (2 図書館運営の充実)	図書館管理運営事業【再掲】	・町内在住・在勤等の図書館利用者に、タブレット等で24時間電子書籍を読むことができる電子図書館を提供すること、多様な図書館利用サービスを提供する。 ・図書館司書が各小学校のニーズに合わせ、学校図書館と連携を図りながら円滑に運営できるよう支援する。	A	・タブレット端末は現代の子どもには身近かつ必須である一方で、使用の仕方を間違えると問題も発生し得ることから、タブレット、デメリットの双方に着眼した有益な事業展開をお願いしたい。 ・図書館管理運営の充実に向けて、量的な面のみならず質的な観点からも指標の設定を工夫していただきたい。

基本目標Ⅳ 豊かな社会・自己実現をはかる生涯学習を進める

重点目標 (重点事項)	事業名	目的	総合 評価	講 評
3 芸術・文化の向上 (3 芸術・文化活動の推進)	文化会館管理運営事業	芸術、文化に理解と見識のある人材の発掘・登用に努めるとともに多様な文化活動の推進に的確に対応し、住民の芸術・文化活動への意欲の向上を図る。	A	・子どもから高齢者までが、日常生活の中で適切に芸術文化に触れる機会ができるような催し物をお願いしたい。 ・自主事業をはじめとするとさまざまな取組について、多くの町民に情報提供ができる広報活動の充実に努めていただきたい。
3 芸術・文化の向上 (4 歴史文化活動の推進)	町史編さん事業	稲美町史発行から約40年が経過し、令和4年度から新たな町史の編さんに着手している。総合的で体系的な町史を編さん・発行することにより、住民の郷土に対する理解を深めるとともに、町に関する貴重な歴史資料を網羅的に収集、整理、保存し、次の世代へ継承する。	A	・長期的な事業継続に向けて、若手人材の育成と円滑な引き継ぎ体制の整備を図っていただきたい。 ・稲美町の歴史を子どもたちが学ぶ機会となるよう、副読本が教育現場で活用され、地域の理解と愛着を育む取組として継続発展されることを期待したい。
4 住民協働の推進 (2 社会教育施設等の活用と推進)	水辺の里公園管理運営事業	水辺の豊かな自然の中での小動物等とのふれあいを通じ、住民の文化活動やレクリエーション活動を促進し、あわせて住民の憩いの広場を提供することを目的とする。	A	・安全管理の強化を図り、地域の憩いの場として公園の機能がより充実するよう取組を推進していただきたい。 ・美しい自然の中で住民が集い、安心して過ごせる公園づくりと、老朽化対策を含めた計画的かつ適切な管理を期待したい。
5 地域における住民の人権学習の充実 (1 各自治会の課題に応じた学習会の実施) (2 住民が関心のある人権課題の講座の実施) (3 体験活動を通じた人権教育の推進)	人権教育啓発事業	人権学習を通して、住民の人権意識を高め、差別解消に向けた態度の形成を図り、日常生活において表れる人権意識の涵養に努め、誰もが住みよいまちづくりをめざす。	A	・住民参加型の学習会が広く展開され、高水準の満足度を維持できている点を高く評価する。 ・人権教育啓発事業を通じ、住民が互いに誘い合いながら人権について共に考える文化を継続し、新規参加者の増加につながる事業の発展を期待したい。

基本目標Ⅳ 豊かな社会・自己実現をはかる生涯学習を進める

重点目標 (重点事項)	事業名	目的	総合 評価	講 評
5 地域における住民の人権学習の 充実 (4 男女共同参画社会の推進)	男女共同参画事業	・第3次稲美町男女共同参画プランの周知に努めるとともに、講演会や研修会を開催し、学習機会を提供する。 ・第3次稲美町男女共同参画プランの進捗状況等を把握し、必要に応じて見直しを図る。	A	・第3次プランで示した内容について、各課での反省や課題を共有し、目指すべき取組を実行できるよう、人権教育課から発信していく。 ・男女共同参画に関する広報は継続して行っているが、住民への認知度は依然として低い。今後は他課とも連携し、セミナーや関連活動のチラシ配布を通じ、啓発活動を一層積極的に展開していく。